

内閣府青年国際交流事業
既参加日本青年フォローアップ調査
報告書

平成 28 年度(2016 年度)
内閣府青年国際交流事業既参加日本青年

一般財団法人 青少年国際交流推進センター
令和 3 年度(2021 年度)

<目 次>

第 1 調査の概要	2
1. 調査の目的.....	2
2. 調査の時期.....	2
3. 調査の対象者.....	2
4. 調査事項.....	2
5. 調査の方法.....	3
6. 調査の委嘱.....	3
第 2 回答者の特性	4
第 3 調査結果	5
第 4 付録	32

第1 調査の概要

1. 調査の目的

内閣府では、青少年育成の一環として、昭和34年以来、数々の青年国際交流事業を継続して行ってきた。これらの交流事業は、日本と諸外国の青年相互の理解と友好の促進、国際性を備えた青少年の育成及びその経験をいかした成果の地域・職域等への還元を図ることを目的として実施されている。

このような青年国際交流事業の趣旨を踏まえ、参加青年が事業に参加後、一定の時間が経過した時点で国際交流等に関しどのような認識を有しているか、また、実際の事後活動がどの程度の規模・頻度でどのように行われているか等、事業の諸効果を的確に把握するため、国際交流事業に参加した青年の意識や事後活動の実態、参加意欲などを調査し、もって今後の青少年に関する各種施策の推進に資することを目的とする。

2. 調査の時期

令和3年(2021年)12月24日(金)～令和4年(2022年)2月1日(火)

3. 調査の対象者

平成28年度(2016年度)内閣府青年国際交流事業

日本参加青年263名

(団長、副団長、渉外、ナショナルリーダー、サブナショナルリーダーを除く)

<内訳>

平成28年度(2018年度)

・国際青年育成交流事業	42名
・日本・中国青年親善交流事業	18名
・日本・韓国青年親善交流事業	24名
・地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」	24名
・「東南アジア青年の船」事業	39名
・次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	116名
合計	263名

4. 調査事項

- (1) 青年国際交流事業への参加による意識の変化
- (2) 青年国際交流事業の成果
- (3) 成果の社会への還元方法
- (4) 青年国際交流事業の在り方(プログラムの内容、構成等)
- (5) 事業終了後の既参加青年のネットワークへの参加の程度

5. 調査の方法

- (1) 質問票の発信 令和3年(2021年)12月24日(金)
- (2) 回答締め切り 令和4年(2022年)2月1日(火)
- (3) 連絡先把握数
 - ・平成28年度(2016年度)参加青年 241名
- (4) 回収数及び回収率
 - ・平成28年度(2016年度)参加青年 123名(回収率51.0%)

6. 調査の委嘱

調査事項の設定は、内閣府青年国際交流担当室が行い、調査の実施及び結果報告書の作成を一般財団法人青少年国際交流推進センターに委嘱した。

本書を読む際の注意

- 1. 比較の数値(パーセンテージ)は、小数第二位を四捨五入し、少数第一位までとする。
- 2. 0名、0%は該当者がいないことを示す。
- 3. 図表においては、回答分の一部(原則として後半部分)を省略している場合がある。正確な回答分は回答部分によって確かめられたい。

第2 回答者の特性

問1. あなたが参加した事業名は何ですか。

平成28年度	回答数	連絡先把握数	回収率
国際青年育成交流事業	13 (名)	38 (名)	34.2%
日本・中国青年親善交流事業	12 (名)	17 (名)	70.6%
日本・韓国青年親善交流事業	10 (名)	22 (名)	45.5%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	15 (名)	20 (名)	75.0%
「東南アジア青年の船」事業	24 (名)	39 (名)	61.5%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	49 (名)	105 (名)	46.7%
合計	123 (名)	241 (名)	51.0%

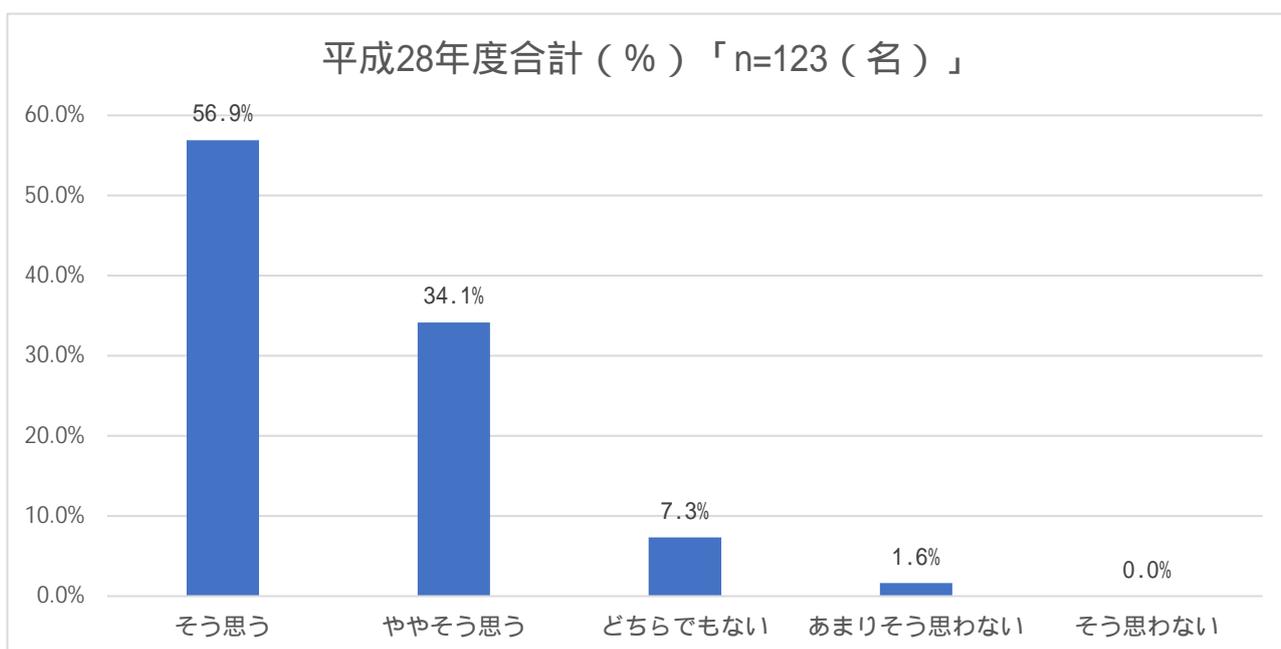
第3 調査結果

< 内閣府青年国際交流事業への参加による影響について伺います。 >

問2. 5年前、内閣府の青年国際交流事業に参加したことで、その後の5年間であなたにどのような影響がありましたか。以下のaからfに挙げる項目について、該当するものをそれぞれ一つお選びください。

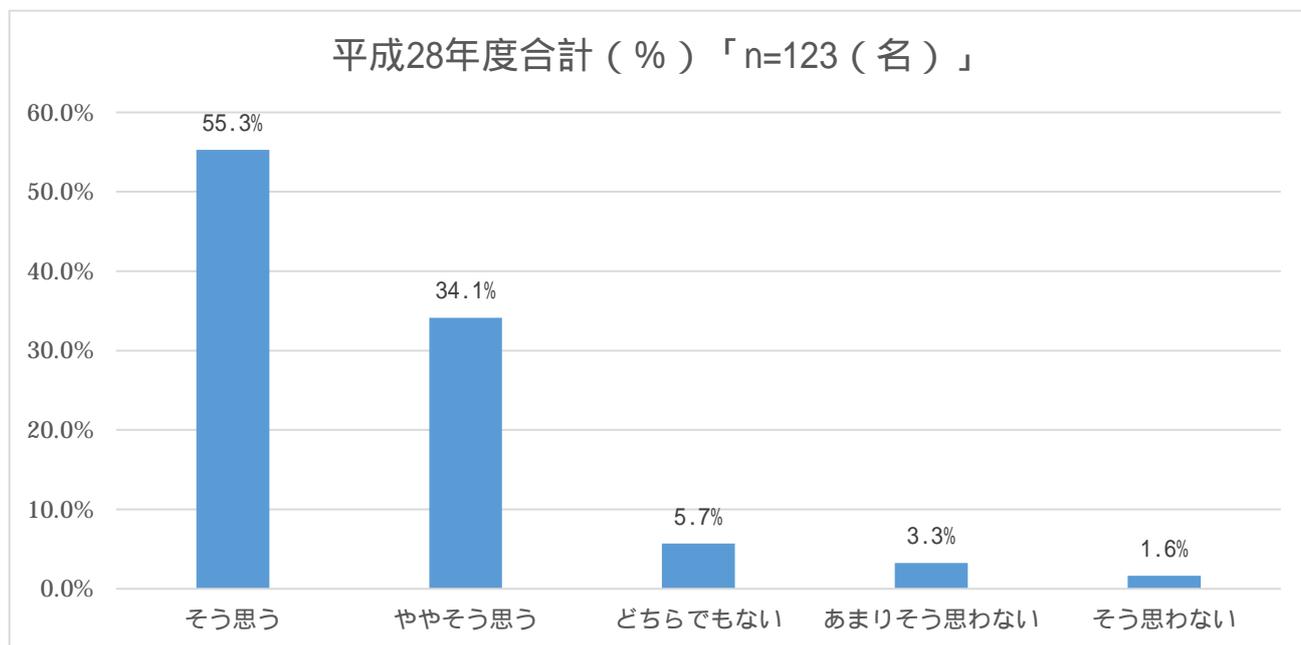
a. 事業に参加したことで、国際社会に貢献する仕事や活動に関心を持ち、キャリア形成に役立っている。

平成28年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際青年育成交流事業	7 (名)	6 (名)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	13 (名)
	53.8%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
日本・中国青年親善交流事業	7 (名)	4 (名)	1 (名)	0 (名)	0 (名)	12 (名)
	58.3%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	5 (名)	4 (名)	1 (名)	0 (名)	0 (名)	10 (名)
	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	9 (名)	6 (名)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	15 (名)
	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」事業	16 (名)	6 (名)	1 (名)	1 (名)	0 (名)	24 (名)
	66.7%	25.0%	4.2%	4.2%	0.0%	100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	26 (名)	16 (名)	6 (名)	1 (名)	0 (名)	49 (名)
	53.1%	32.7%	12.2%	2.0%	0 (名)	100%
合計	70 (名)	42 (名)	9 (名)	2 (名)	0 (名)	123 (名)
	56.9%	34.1%	7.3%	1.6%	0.0%	100%



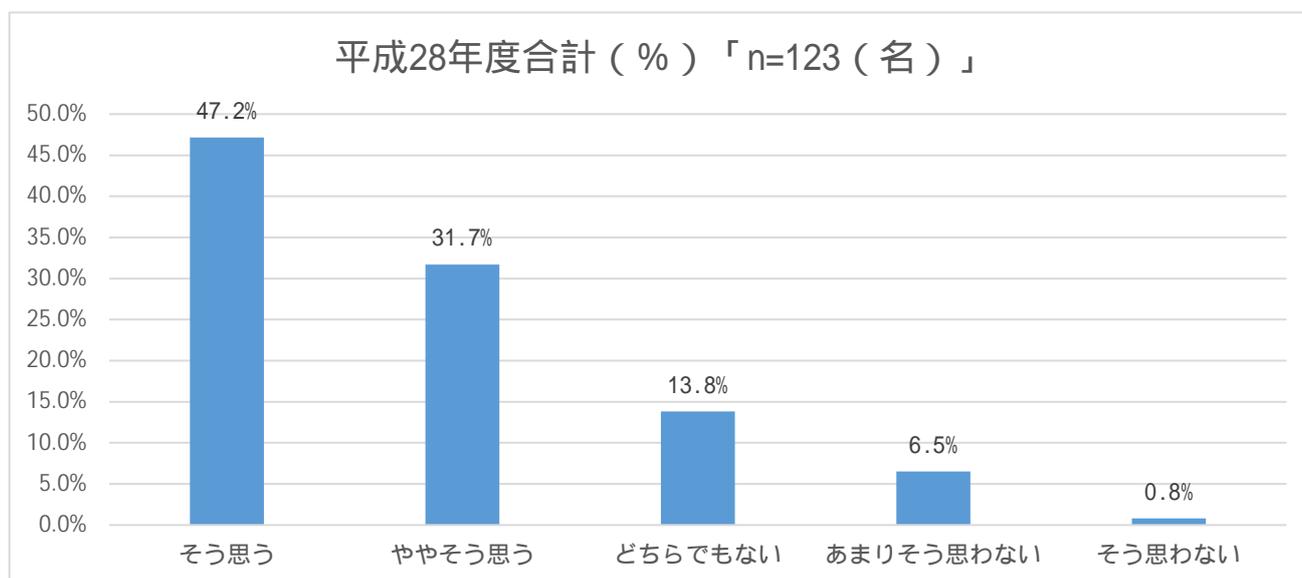
b. 事業に参加したことで、地域社会に貢献する仕事や活動に関心を持ち、キャリア形成に役立っている。

平成28年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際青年育成交流事業	9 (名)	3 (名)	1 (名)	0 (名)	0 (名)	13 (名)
	69.2%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%	100%
日本・中国青年親善交流事業	7 (名)	3 (名)	1 (名)	1 (名)	0 (名)	12 (名)
	58.3%	25.0%	8.3%	8.3%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	6 (名)	3 (名)	0 (名)	0 (名)	1 (名)	10 (名)
	60.0%	30.0%	0.0%	0.0%	10.0%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	10 (名)	5 (名)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	15 (名)
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」事業	10 (名)	11 (名)	2 (名)	1 (名)	0 (名)	24 (名)
	41.7%	45.8%	8.3%	4.2%	0.0%	100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	26 (名)	17 (名)	3 (名)	2 (名)	1 (名)	49 (名)
	53.1%	34.7%	6.1%	4.1%	2.0%	100%
合計	68 (名)	42 (名)	7 (名)	4 (名)	2 (名)	123 (名)
	55.3%	34.1%	5.7%	3.3%	1.6%	100%



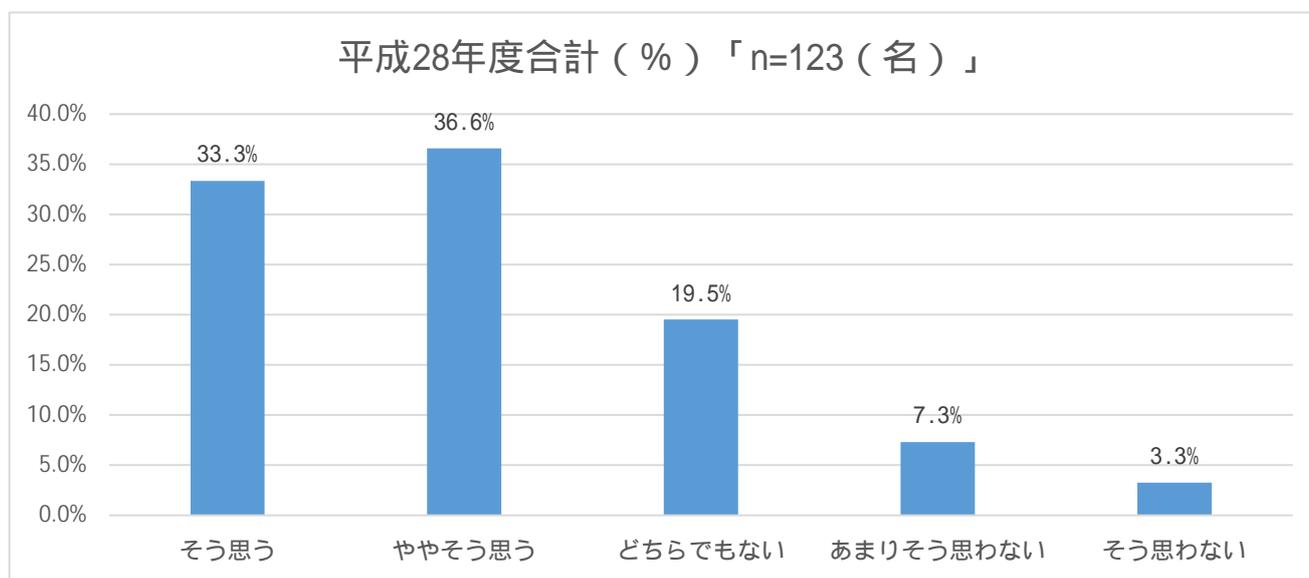
c. 事業で得たリーダーシップやマネジメント能力を発揮する具体的な機会を得た。

平成28年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際青年育成交流事業	6 (名)	2 (名)	3 (名)	2 (名)	0 (名)	13 (名)
	46.2%	15.4%	23.1%	15.4%	0.0%	100%
日本・中国青年親善交流事業	6 (名)	3 (名)	1 (名)	2 (名)	0 (名)	12 (名)
	50.0%	25.0%	8.3%	16.7%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	3 (名)	5 (名)	1 (名)	1 (名)	0 (名)	10 (名)
	30.0%	50.0%	10.0%	10.0%	0.0%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	8 (名)	4 (名)	3 (名)	0 (名)	0 (名)	15 (名)
	53.3%	26.7%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」事業	8 (名)	11 (名)	2 (名)	2 (名)	1 (名)	24 (名)
	33.3%	45.8%	8.3%	8.3%	4.2%	100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	27 (名)	14 (名)	7 (名)	1 (名)	0 (名)	49 (名)
	55.1%	28.6%	14.3%	2.0%	0.0%	100%
合計	58 (名)	39 (名)	17 (名)	8 (名)	1 (名)	123 (名)
	47.2%	31.7%	13.8%	6.5%	0.8%	100%



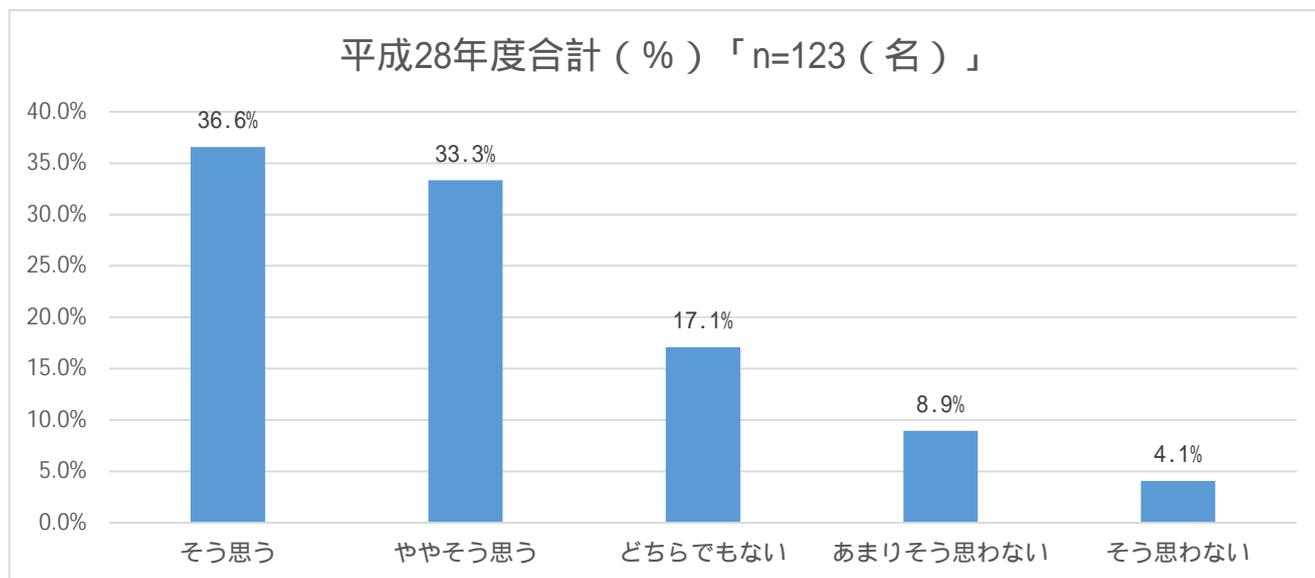
d. 事業参加経験をきっかけに社会貢献（ボランティア活動等）に取り組むようになった。

平成28年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際青年育成交流事業	5 (名)	5 (名)	3 (名)	0 (名)	0 (名)	13 (名)
	38.5%	38.5%	23.1%	0.0%	0.0%	100%
日本・中国青年親善交流事業	2 (名)	5 (名)	2 (名)	3 (名)	0 (名)	12 (名)
	16.7%	41.7%	16.7%	25.0%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	3 (名)	5 (名)	2 (名)	0 (名)	0 (名)	10 (名)
	30.0%	50.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	6 (名)	6 (名)	3 (名)	0 (名)	0 (名)	15 (名)
	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」事業	5 (名)	11 (名)	3 (名)	4 (名)	1 (名)	24 (名)
	20.8%	45.8%	12.5%	16.7%	4.2%	100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	20 (名)	13 (名)	11 (名)	2 (名)	3 (名)	49 (名)
	40.8%	26.5%	22.4%	4.1%	6.1%	100%
合計	41 (名)	45 (名)	24 (名)	9 (名)	4 (名)	123 (名)
	33.3%	36.6%	19.5%	7.3%	3.3%	100%



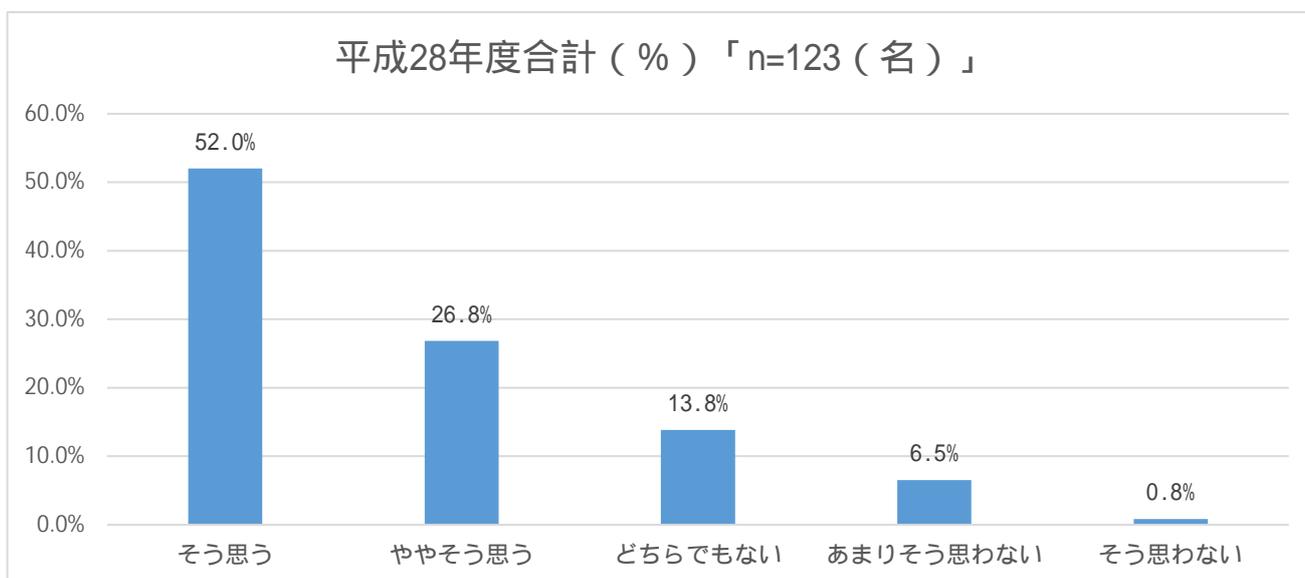
e. 事業で得た国際的人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。

平成28年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際青年育成交流事業	4 (名)	3 (名)	4 (名)	2 (名)	0 (名)	13 (名)
	30.8%	23.1%	30.8%	15.4%	0.0%	100%
日本・中国青年親善交流事業	3 (名)	5 (名)	2 (名)	2 (名)	0 (名)	12 (名)
	25.0%	41.7%	16.7%	16.7%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	5 (名)	4 (名)	0 (名)	0 (名)	1 (名)	10 (名)
	50.0%	40.0%	0.0%	0.0%	10.0%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	3 (名)	10 (名)	1 (名)	1 (名)	0 (名)	15 (名)
	20.0%	66.7%	6.7%	6.7%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」事業	12 (名)	6 (名)	3 (名)	2 (名)	1 (名)	24 (名)
	50.0%	25.0%	12.5%	8.3%	4.2%	100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	18 (名)	13 (名)	11 (名)	4 (名)	3 (名)	49 (名)
	36.7%	26.5%	22.4%	8.2%	6.1%	100%
合計	45 (名)	41 (名)	21 (名)	11 (名)	5 (名)	123 (名)
	36.6%	33.3%	17.1%	8.9%	4.1%	100%



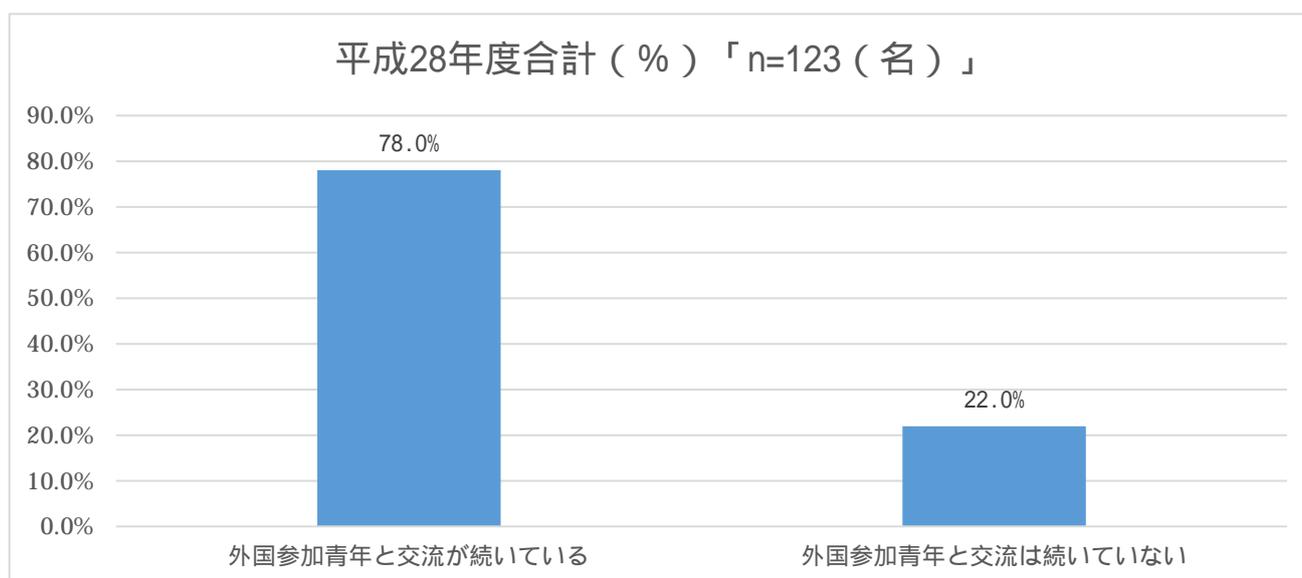
f. 事業で得た国内の人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。

平成28年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際青年育成交流事業	7 (名)	4 (名)	0 (名)	2 (名)	0 (名)	13 (名)
	53.8%	30.8%	0.0%	15.4%	0.0%	100%
日本・中国青年親善交流事業	7 (名)	1 (名)	2 (名)	2 (名)	0 (名)	12 (名)
	58.3%	8.3%	16.7%	16.7%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	4 (名)	5 (名)	1 (名)	0 (名)	0 (名)	10 (名)
	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	6 (名)	6 (名)	3 (名)	0 (名)	0 (名)	15 (名)
	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」事業	13 (名)	5 (名)	4 (名)	1 (名)	1 (名)	24 (名)
	54.2%	20.8%	16.7%	4.2%	4.2%	100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	27 (名)	12 (名)	7 (名)	3 (名)	0 (名)	49 (名)
	55.1%	24.5%	14.3%	6.1%	0.0%	100%
合計	64 (名)	33 (名)	17 (名)	8 (名)	1 (名)	123 (名)
	52.0%	26.8%	13.8%	6.5%	0.8%	100%



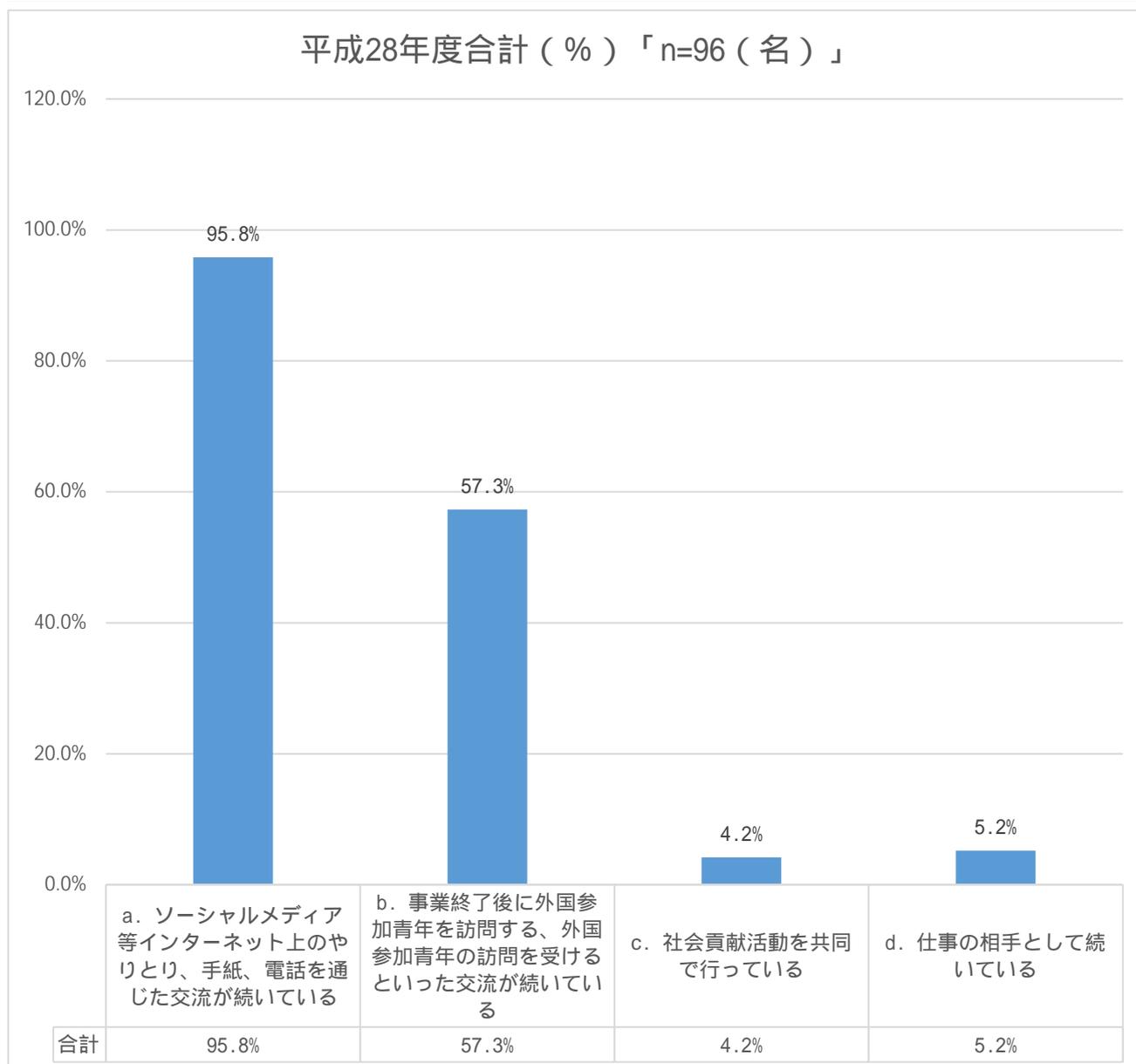
問3. あなたは、同じ事業に参加した外国人の参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

平成28年度	外国参加青年と 交流が続いている	外国参加青年と 交流は続いていない	合計
国際青年育成交流事業	9 (名)	4 (名)	13 (名)
	69.2%	30.8%	100%
日本・中国青年親善交流事業	5 (名)	7 (名)	12 (名)
	41.7%	58.3%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	9 (名)	1 (名)	10 (名)
	90.0%	10.0%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	6 (名)	9 (名)	15 (名)
	40.0%	60.0%	100%
「東南アジア青年の船」事業	24 (名)	0 (名)	24 (名)
	100.0%	0.0%	100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	43 (名)	6 (名)	49 (名)
	87.8%	12.2%	100%
合計	96 (名)	27 (名)	123 (名)
	78.0%	22.0%	100%



問 3-1.【外国参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。(複数選択可) また、c.d を選んだ方は具体的な内容を記載してください。

平成28年度	a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている	b. 事業終了後に外国参加青年を訪問する、外国参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている	c. 社会貢献活動を共同で行っている	d. 仕事の相手として続いている	回答者数
国際青年育成交流事業	9 (名) 100.0%	2 (名) 22.2%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	9 (名) -
日本・中国青年親善交流事業	5 (名) 100.0%	2 (名) 40.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	5 (名) -
日本・韓国青年親善交流事業	9 (名) 100.0%	6 (名) 66.7%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	9 (名) -
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	6 (名) 100.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	6 (名) -
「東南アジア青年の船」事業	23 (名) 95.8%	18 (名) 75.0%	2 (名) 8.3%	3 (名) 12.5%	24 (名) -
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	40 (名) 93.0%	27 (名) 62.8%	2 (名) 4.7%	2 (名) 4.7%	43 (名) -
合計	92 (名) 95.8%	55 (名) 57.3%	4 (名) 4.2%	5 (名) 5.2%	96 (名) -



【問 3-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください。

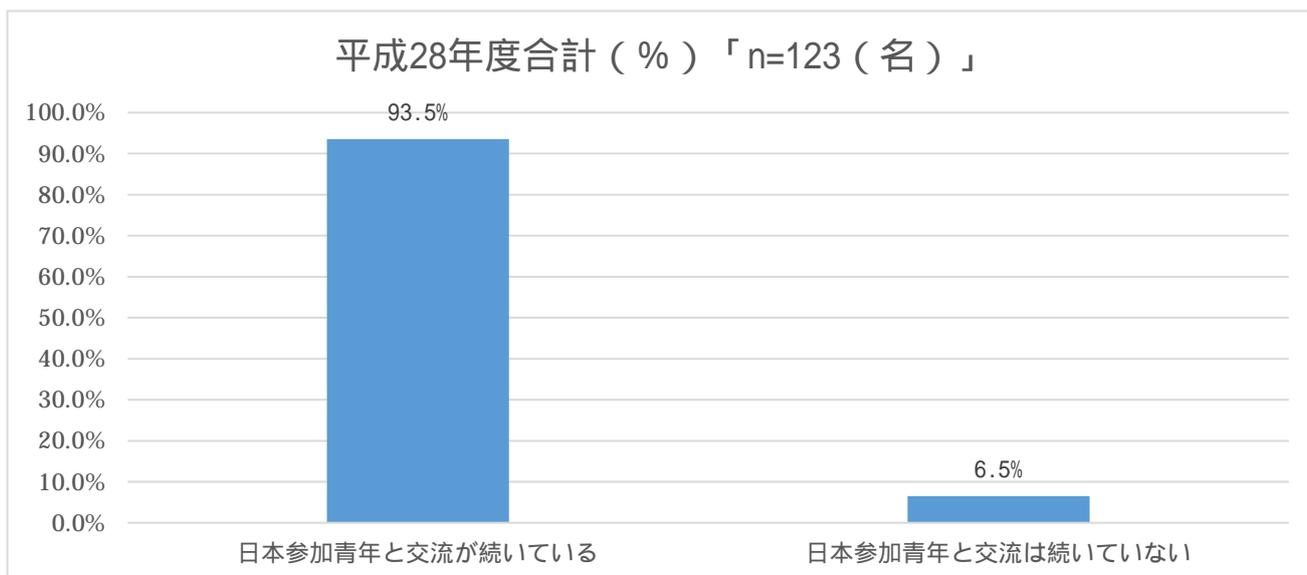
- ・日本・マレーシアを双方に紹介するプログラムの実施などを事業参加後に複数回行った。
- ・東南アジア青年の船の受け入れ事業にボランティアとして参加したことがある。
- ・グローバルリーダーシップトレーニング講座を作り、2年以上各所に提供。
- ・フィリピン既参加青年の活動への寄付。
- ・マレーシアの東南アジア青年の船のOBOG組織、KABESA(SI Malaysia 正式団体名称)と連携し、日本とマレーシアの交流活動を行っている。2020年にはマレーシアでFriendship tourを開催した。
- ・その他教育機関へのスピーカーの提供。
- ・東南アジア青年の船のSIGA JAPANのスタッフとして携わっている。

【問 3-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください。

- ・インタビューや翻訳業などでお世話になることがある。
- ・インドネシアの参加青年が勤める会社向けに簡単な英会話教室をオンラインで開いてほしいと言われたことがある。
- ・トレーニング講座の販売。
- ・地元で既参加青年を招待して中高生や島民に講演会やイベントを数回行っている。
- ・お互いに金銭が発生するような関わりではないが、海外の学会参加や論文作成の際にアドバイスをいただいた。

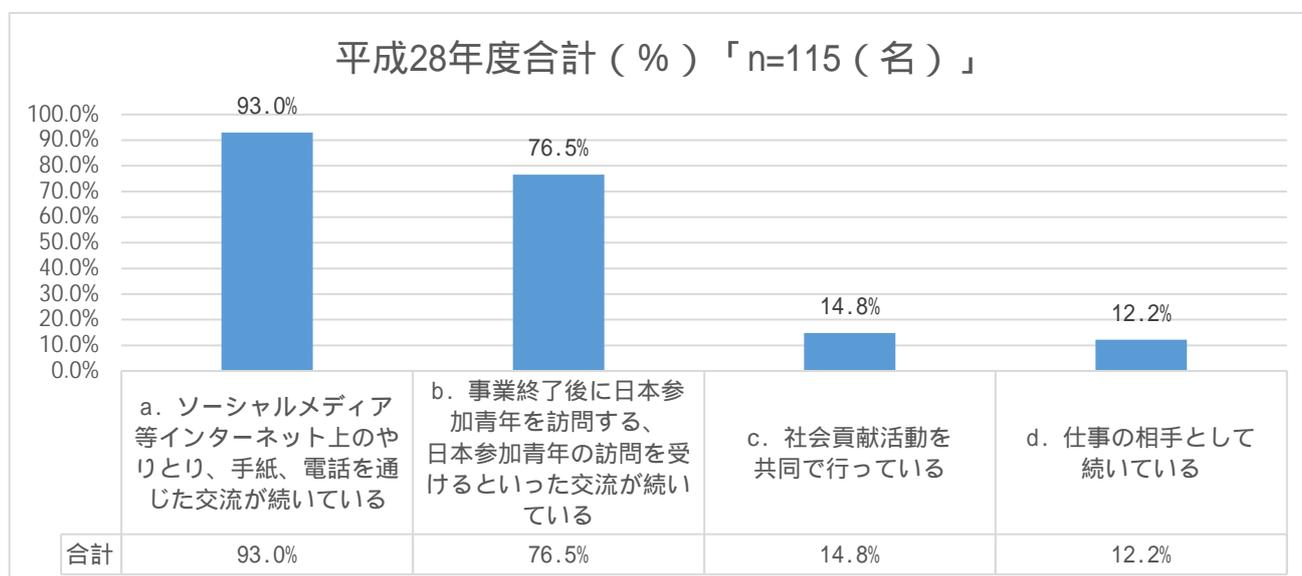
問 4. あなたは、同じ事業に参加した日本参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

平成28年度	日本参加青年と交流が続いている	日本参加青年と交流は続いていない	合計
国際青年育成交流事業	12 (名)	1 (名)	13 (名)
	92.3%	7.7%	100%
日本・中国青年親善交流事業	10 (名)	2 (名)	12 (名)
	83.3%	16.7%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	8 (名)	2 (名)	10 (名)
	80.0%	20.0%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	12 (名)	3 (名)	15 (名)
	80.0%	20.0%	100%
「東南アジア青年の船」事業	24 (名)	0 (名)	24 (名)
	100.0%	0.0%	100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	49 (名)	0 (名)	49 (名)
	100.0%	0.0%	100%
合計	115 (名)	8 (名)	123 (名)
	93.5%	6.5%	100%



問 4-1.【日本参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。（複数選択可）また、c.dを選んだ方は具体的な内容を記載してください。

平成28年度	a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている	b. 事業終了後に日本参加青年を訪問する、日本参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている	c. 社会貢献活動を共同で行っている	d. 仕事の相手として続いている	回答者数
国際青年育成交流事業	11（名） 91.7%	8（名） 66.7%	2（名） 16.7%	0（名） 0.0%	12（名） -
日本・中国青年親善交流事業	10（名） 100.0%	3（名） 30.0%	1（名） 10.0%	0（名） 0.0%	10（名） -
日本・韓国青年親善交流事業	8（名） 100.0%	6（名） 75.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	8（名） -
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	11（名） 91.7%	6（名） 50.0%	3（名） 25.0%	4（名） 33.3%	12（名） -
「東南アジア青年の船」事業	23（名） 95.8%	22（名） 91.7%	3（名） 12.5%	5（名） 20.8%	24（名） -
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	44（名） 89.8%	43（名） 87.8%	8（名） 16.3%	5（名） 10.2%	49（名） -
合計	107（名） 93.0%	88（名） 76.5%	17（名） 14.8%	14（名） 12.2%	115（名） -



【問 4-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

- ・若者の内省ワークショップを共同で作成しコミュニティ形成を行っている。
- ・同じレターグループだった1名と同じ地域に引っ越し、その地域のまちづくりイベントや市が行う検討会議への出席等を行っている。
- ・連携事業をいくつか行っている。
- ・IYEOの活動等に一緒に取り組んだ。
- ・私が所属しているNPO法人傘下の学生団体を立ち上げ中であり、活動の一つとして「世界青年の船」事業の同期が所属する水関係のNGOとビーチクリーンや脱プラスチックの啓発活動を共同で行う予定である。また、現在私はオンラインで実施している「東南アジア青年の船」事業に参加しており、NPOの経験を活かして日本への留学・就職を希望する東南アジア青年向けのオンラインセミナーを参加者と企画中である。
- ・時折、同期などを中心に東南アジア関連のイベントの手伝いなどすることがある。
- ・ブルネイを活用した国際交流活動、教育機関等での登壇。
- ・北海道IYEOでの活動を一緒に行っている。
- ・若者のキャリア教育の領域で事業をしている。若者向けのプログラムに講演者として登壇いただいた。
- ・IYEOでの国際交流イベントや、被災地支援活動。
- ・IYEOの活動の他、テンポラリーで国際紅白歌合戦や若手育成のボランティア活動を実施。
- ・自身が所属している団体の非営利事業にて協力してもらっている。
- ・お互いが活動しているNPOをはじめ、社会活動で情報共有、講師招聘などを行っている。
- ・地域在留外国人にボランティアとして日本語を教えている。
- ・IYEOの外国青年受け入れ事業など。
- ・東南アジア青年の船のSIGA JAPANのスタッフとして携わっている。
- ・共同でイベント開催。もしくは社会課題解決アクションに必要な人脈をお互いに繋げ合うなど。

【問 4-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

- ・団体の理事をしてもらっている。講師として、数名にお願いし実績もある。
- ・理事を担っている。
- ・翻訳の依頼を受けたりすることもある。
- ・現在webサイトのデザイン会社に勤めており、友人の勤める団体がクライアントのプロジェクトが現在進んでいる。
- ・学校の教員になった同期と、一緒にプロジェクトを進めた。
- ・同じ組織にいることもあり、同じ国際会議の案件で個人的な相談や部署間の仕事の調整を行っている。
- ・講師として教員研修を行ってもらったりしている。
- ・職場の研修講師としてご来校いただいたり、教育実践へのご意見ご助言をいただいたりしている。また、こちらが同様にすることもしている。
- ・党主催のイベントを告知した際、そのイベントに参加していただいたことがある。
- ・地元で既参加青年を招待して、講演会等を行っている
- ・スポーツイベントを自治体と開催。
- ・地方創生に関するアクティビティなど。
- ・共同でビジネスを展開している。船の仲間と色々と仕掛けていく。
- ・福岡の観光事業を促進する会社を経営しており、地域の事業者である青年の商材をPRするなどビジネスの交流が続いている。

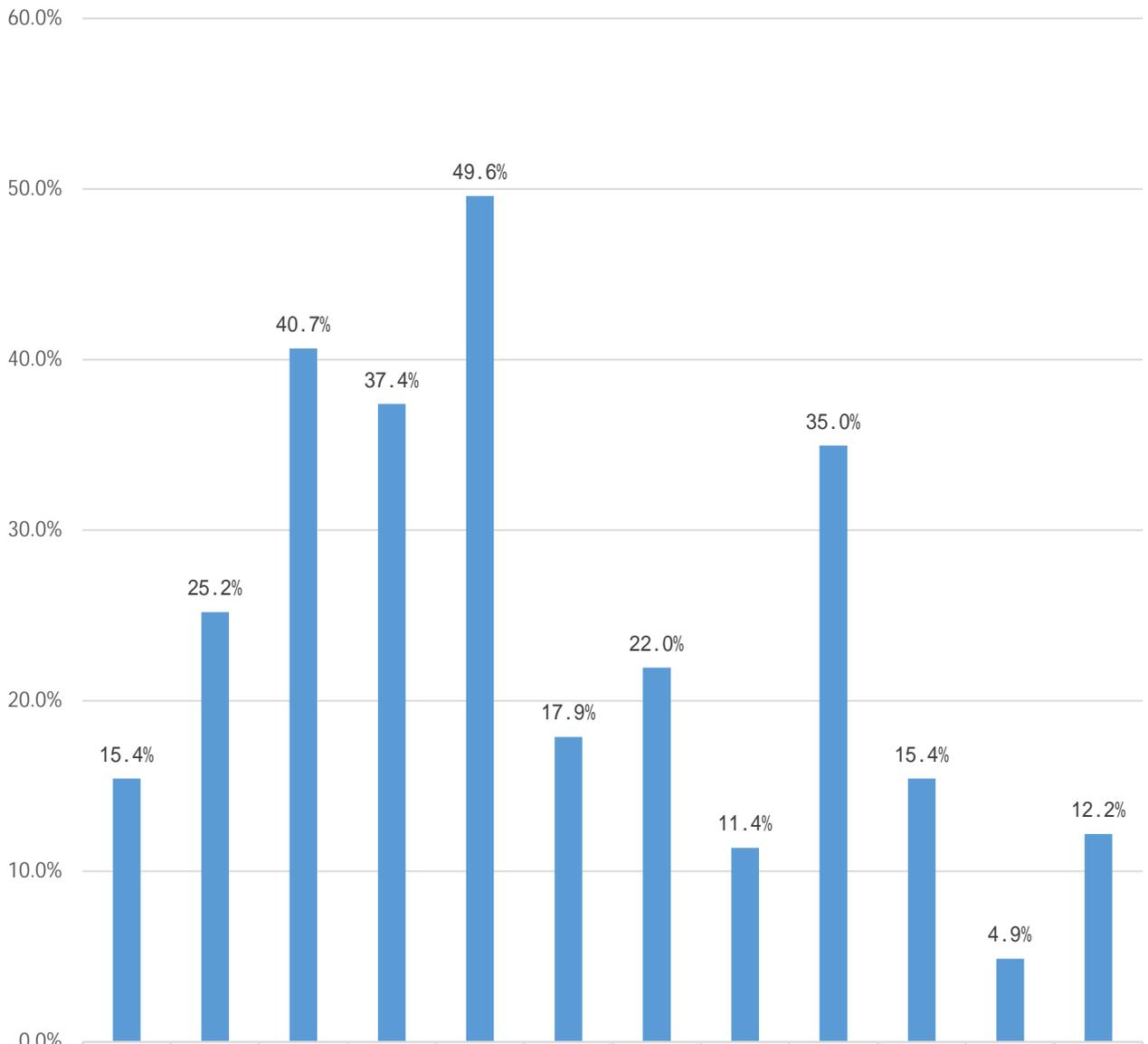
＜ 「事後活動」 について伺います。 ＞

問 5. 5 年前に事業に参加した後、その後の 5 年間に以下の事後活動に参加しましたか。(複数選択可)

平成28年度	事後活動組織の国際大会 (SIGA, SWY Global Assembly, 日韓交流連絡会議等)	事後活動組織の国内大会 (全国大会、ブロック大会等)	内閣府青年国際交流事業の実施への協力 (例: 広報の実施、ホームステイの受け入れ、実行委員会への参加、等)	事業説明/報告会等で内閣府青年国際交流事業参加経験を他者に伝える活動 (内閣府職員が出席する説明・報告会への参加)	事業説明/報告会等で内閣府青年国際交流参加経験を他者に伝える活動 (上述以外)	主に国外を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動 (例: スタディーツアー等)
国際青年育成交流事業	0 (名)	3 (名)	7 (名)	3 (名)	6 (名)	6 (名)
	0.0%	23.1%	53.8%	23.1%	46.2%	46.2%
日本・中国青年親善交流事業	1 (名)	5 (名)	2 (名)	2 (名)	5 (名)	1 (名)
	8.3%	41.7%	16.7%	16.7%	41.7%	8.3%
日本・韓国青年親善交流事業	7 (名)	0 (名)	5 (名)	3 (名)	2 (名)	2 (名)
	70.0%	0.0%	50.0%	30.0%	20.0%	20.0%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	0 (名)	6 (名)	8 (名)	3 (名)	9 (名)	2 (名)
	0.0%	40.0%	53.3%	20.0%	60.0%	13.3%
「東南アジア青年の船」事業	2 (名)	7 (名)	13 (名)	13 (名)	15 (名)	4 (名)
	8.3%	29.2%	54.2%	54.2%	62.5%	16.7%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	9 (名)	10 (名)	15 (名)	22 (名)	24 (名)	7 (名)
	18.4%	20.4%	30.6%	44.9%	49.0%	14.3%
合計	19 (名)	31 (名)	50 (名)	46 (名)	61 (名)	22 (名)
	15.4%	25.2%	40.7%	37.4%	49.6%	17.9%

平成28年度	主に国内を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動 (例: 国際教育支援等)	国内外の災害復興支援 (東日本大震災復興支援活動、熊本地震復興支援活動等)	各都道府県における事後活動組織の活動 (定例会、独自の活動等)	街おこし等の地域密着型の社会活動	その他	上のどれにも参加していない。	回答者母数
国際青年育成交流事業	5 (名)	2 (名)	8 (名)	1 (名)	0 (名)	1 (名)	13 (名)
	38.5%	15.4%	61.5%	7.7%	0.0%	7.7%	-
日本・中国青年親善交流事業	0 (名)	1 (名)	3 (名)	0 (名)	1 (名)	3 (名)	12 (名)
	0.0%	8.3%	25.0%	0.0%	8.3%	25.0%	-
日本・韓国青年親善交流事業	2 (名)	0 (名)	2 (名)	0 (名)	1 (名)	0 (名)	10 (名)
	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	-
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	3 (名)	1 (名)	9 (名)	4 (名)	1 (名)	2 (名)	15 (名)
	20.0%	6.7%	60.0%	26.7%	6.7%	13.3%	-
「東南アジア青年の船」事業	4 (名)	4 (名)	7 (名)	5 (名)	0 (名)	4 (名)	24 (名)
	16.7%	16.7%	29.2%	20.8%	0.0%	16.7%	-
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	13 (名)	6 (名)	14 (名)	9 (名)	3 (名)	5 (名)	49 (名)
	26.5%	12.2%	28.6%	18.4%	6.1%	10.2%	-
合計	27 (名)	14 (名)	43 (名)	19 (名)	6 (名)	15 (名)	123 (名)
	22.0%	11.4%	35.0%	15.4%	4.9%	12.2%	-

平成28年度合計（％）「n=123（名）」



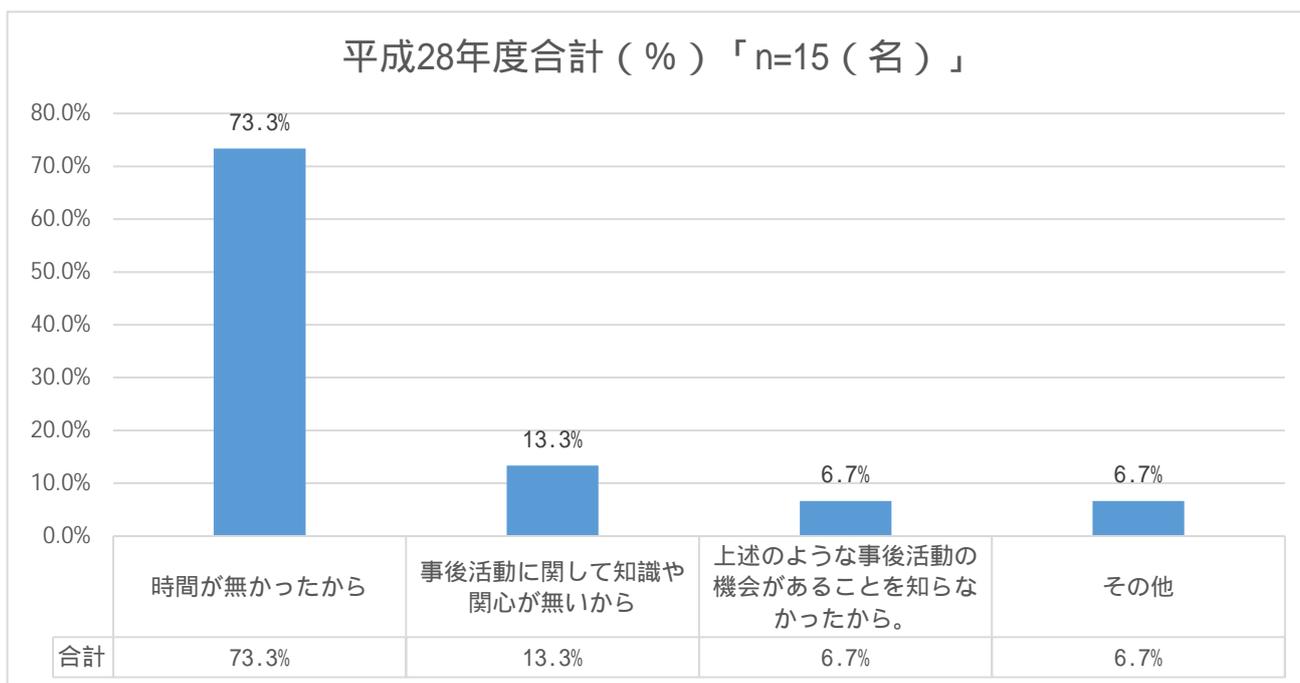
事後活動組織の国際大会 (SIGA, SWY Global Assembly, 日韓交流連絡会議等)	15.4%	25.2%	40.7%	37.4%	49.6%	17.9%	22.0%	11.4%	35.0%	15.4%	4.9%	12.2%
事後活動組織の国内大会 (全国大会、ブロック大会等)												
内閣府青年国際交流事業の実施への協力 (例: 広報の実施、ホームステイの受入れ、実行委員会への参加、等)												
事業説明/報告会等で内閣府青年国際交流事業参加経験を他者に伝える活動 (内閣府職員が出席する説明・報告会への参加)												
事業説明/報告会等で内閣府青年国際交流参加経験を他者に伝える活動 (上述以外)												
主に国外を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動 (例: スターツアー等)												
主に国内を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動 (例: 国際教育支援等)												
国内外の災害復興支援 (東日本大震災復興支援活動、熊本地震復興支援活動等)												
各都道府県における事後活動組織の活動 (定例会、独自の活動等)												
街おこし等の地域密着型社会活動												
その他												
上のどれにも参加していない。												
合計	15.4%	25.2%	40.7%	37.4%	49.6%	17.9%	22.0%	11.4%	35.0%	15.4%	4.9%	12.2%

問 5-1. 問 5 で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

- ・世界新体操選手権ボランティア。
- ・国際機関職員等への個人レベルでの青年の船事業の PR。
- ・平成 20 年度日中オンライン事業運営サポーター。
- ・平成 21 年度日中オンライン事業ファシリテーター。
- ・参加国ウクライナへ訪問し、ウクライナ青年 200 名への世界青年の船の PR。
- ・国際協力に関心のある 20 代向けへのオンラインでの世界青年の船事業のセミナー実施。
- ・地域の少中高生を対象に無料で学習支援をするサークルを立ち上げて、活動をした。
- ・同じレターグループに所属していた青年のひとりが主催していたイベント等の手伝いなどを行った。

問 5-2. 問 5 で「上のどれにも参加していない」を選んだ方は、参加しなかったのはなぜですか。

平成28年度	時間が無かったから	事後活動に関して知識や関心が無いから	上述のような事後活動の機会があることを知らなかったから。	その他	合計
国際青年育成交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 100.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 100%
日本・中国青年親善交流事業	2 (名) 66.7%	1 (名) 33.3%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	3 (名) 100%
日本・韓国青年親善交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	1 (名) 50.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 50.0%	2 (名) 100%
「東南アジア青年の船」事業	3 (名) 75.0%	1 (名) 25.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	4 (名) 100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	5 (名) 100.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	5 (名) 100%
合計	11 (名) 73.3%	2 (名) 13.3%	1 (名) 6.7%	1 (名) 6.7%	15 (名) 100%

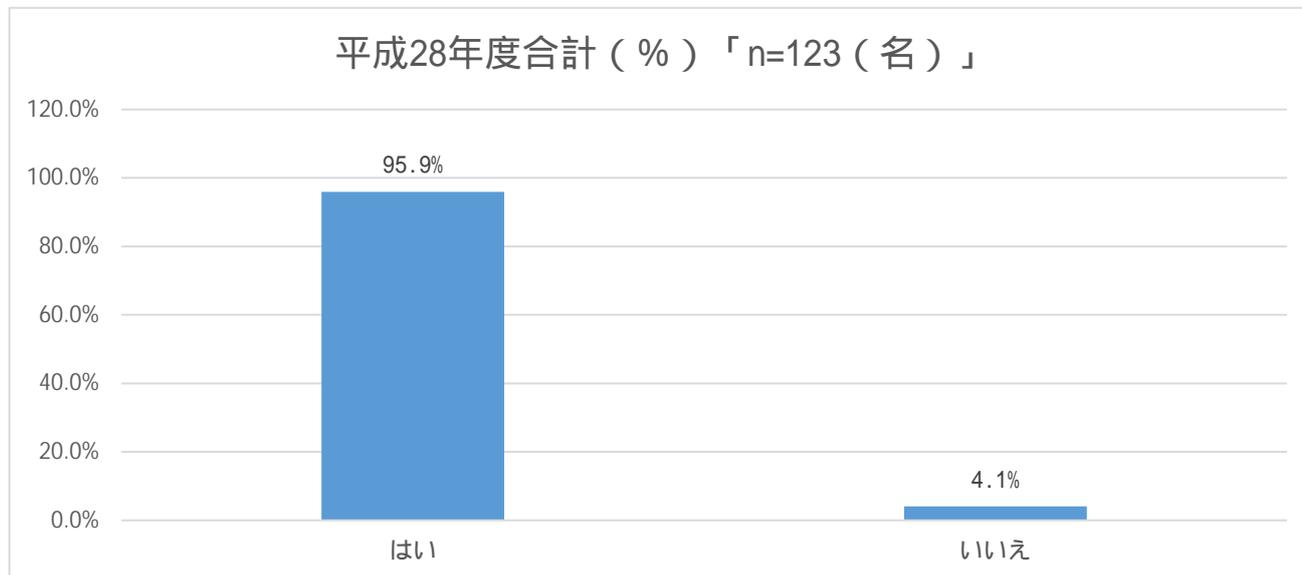


問 5-3. 問 5-2 で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

- ・興味がない。

問 6. 内閣府の青年国際交流事業では、参加した青年を中心に組織された同窓会組織である日本青年国際交流機構(IYEO)が大きな事後活動組織としてあります。あなたは、IYEO に会員登録(入会)しましたか。

平成28年度	はい	いいえ	合計
国際青年育成交流事業	12 (名) 92.3%	1 (名) 7.7%	13 (名) 100%
日本・中国青年親善交流事業	11 (名) 91.7%	1 (名) 8.3%	12 (名) 100%
日本・韓国青年親善交流事業	10 (名) 100.0%	0 (名) 0.0%	10 (名) 100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	15 (名) 100.0%	0 (名) 0.0%	15 (名) 100%
「東南アジア青年の船」事業	23 (名) 95.8%	1 (名) 4.2%	24 (名) 100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	47 (名) 95.9%	2 (名) 4.1%	49 (名) 100%
合計	118 (名) 95.9%	5 (名) 4.1%	123 (名) 100%



問 6-1. 「はい」を選んだ方は、今後 IYEO がどのような組織であると活動を継続しやすいと思いますか。

- ・すぐに連絡が取りやすい関係性であること。
- ・内輪の關係に終止せず、新しい人を迎え入れる準備があること。
- ・いずれは事後活動に参加したいと思っており、現在自分が参加できなくとも、IYEO の活動をメールなどで知ることができる事はありがたい。
- ・IYEO 事後活動をまとめたプラットフォームがあるとアクセスしやすいかと思います。
- ・幅広い年代や地域に会員がいる特徴を活かし、その大きな人脈ネットワークを活用できる場であると良いと思

- う。国際交流だけではなく、様々な活動をされている方がいらっしゃると思うので、その知見をシェアできる場であれば楽しく継続できると思う。
- ・現在のように、緩やかにつながり、必要な時に結束する組織であると活動を継続しやすいと思う。
- ・ゆるいつながりも重要だと思うが、私個人の性格として、コミットできる、必要がある事業等があると継続して参画しやすいと感じる。そのため、IYEO の規模を考えると、より大きな社会に対するインパクトのあることができると良いと思う。
- ・会員と丁寧にコミュニケーションをとる組織
- ・既存の仲間だけで盛り上がる形ではなく新規入会者も参加しやすい雰囲気になると良いと思う。
- ・活動内容がより周知されれば、活動を継続しやすいと思う。
- ・IYEO 限定の求人情報等をもう少し連絡網等でまわして頂けると、今後、『内閣府の青年国際交流がキャリア形成に役だった』という旨の質問に対してよりポジティブな回答が増えると考えている。
- ・多様な関わり方(時間や役職など)ができる組織。
- ・世代を問わず、事後貢献活動に参加しやすいコミュニティづくり(イベントの開催など)。
- ・SNS(特に LINE や Instagram 等)を活用して、組織の情報や、連絡がもっと受けとりやすいといいと思う。
- ・地方の会員ももっと東京の活動とか他の地域の活動に関わりやすいと事後活動がもっとやりやすいと思う。
- ・海外の人との直接的な交流の場がある組織
- ・様々な年代の人が知り合い、一緒に企画、実行するような会を開催する。またその土地に合った、イベントやボランティア活動などをしながら、今後の参加者を募るような繋がりを作っていく。
- ・中国派遣に参加したが、全体的に船事業の関連のイベントや参加者の割合が多いため、活動の案内が来ても不安になって諦めてしまう。各事業ごとの単位で組織化されたほうが活動のハードルが低くなるように思う。
- ・具体的に国際的な活動があり、それに参加しやすい体制があるといいのかなと思う。
- ・ホームステイや国内事業広報、国外活動など、学生や社会人、それぞれの立場から参加できるニーズに合わせた活動が続けられるネットワークであってほしい。
- ・コロナ禍では難しいかと思いますが、多くの若い人に開かれた組織であるといいと思う。
- ・必要に応じて都道府県よりも広い単位で活動する
- ・なかなか活動の情報が届きにくいので、情報発信を強化すべきだと思う。
- ・海外青年と交流を持つ場としての役割を果たすとともに、地域ごとに社会貢献活動をしていく。
- ・身内感をそこまで出さない雰囲気になるとより参加しやすくなると思う。
- ・いつでも帰ってこれる仕組みや雰囲気づくりも大事なかなと感じる。
- ・個々が仕事面でも活躍し、それを共有して刺激ももらえる組織。大会を減らし、東北、中四国など大きいまとまりで大会を実施し、同窓会の機能を持つ。受入れ事業に参加し、もり立てられるボランティア活動。
- ・全国大会や地域ブロック大会などの実行委員の負担が重く、また内容が単なる交流活動に終始しがちであると思う。もっと直接的に国際貢献に繋がるような大会にするために、他の NGO に参画してもらったり共同開催したりできないか。
- ・それぞれの個性や多様な価値観の下、できる範囲で貢献できる組織だと活動を継続しやすいと考える。
- ・得意なこと、できること、好きなことで社会に貢献すれば、本人の満足度も高く、周囲への影響も大いにあると考える。
- ・若者が活躍しやすく、柔軟性があること。理解しやすいこと。
- ・気軽に誰もが参加しやすい組織。今まで活動できていなかった人も、今からでも参加できて、楽しめて、人との繋がりを作ることができたら継続しやすいと思う。
- ・オンラインを活用した活動が増えると参加しやすいと思う。
- ・より交流が図れるプラットフォームがあると良い。
- ・情報を自分から取りに行かないとできないので、そのあたりをもっと SNS 等で気軽に情報を見られるようにしてほしい。
- ・特定ではない幅広いメンバーが交流しやすいイベントや会議が開催されていること。
- ・誰に対してもオープンで、かつ事業参加時のような社会貢献が当たり前のように感じさせてくれるような組織。
- ・内輪的でなく、縦横の繋がりが活発なコミュニティ
- ・自分自身をふくめ、メンバーがそれぞれの所属組織で活躍していくことが、参加したくなる、参加しやすい組織づくりにつながると思う。
- ・現状、事業に参加したことのメリットは享受しているものの、IYEO に所属しているメリットはあまり感じられていない。同期の繋がりはすでにあるため、組織に頼る必要性はないが、参加年度を超えた繋がりをうめるのは組織の役割であり、魅力だと思う。

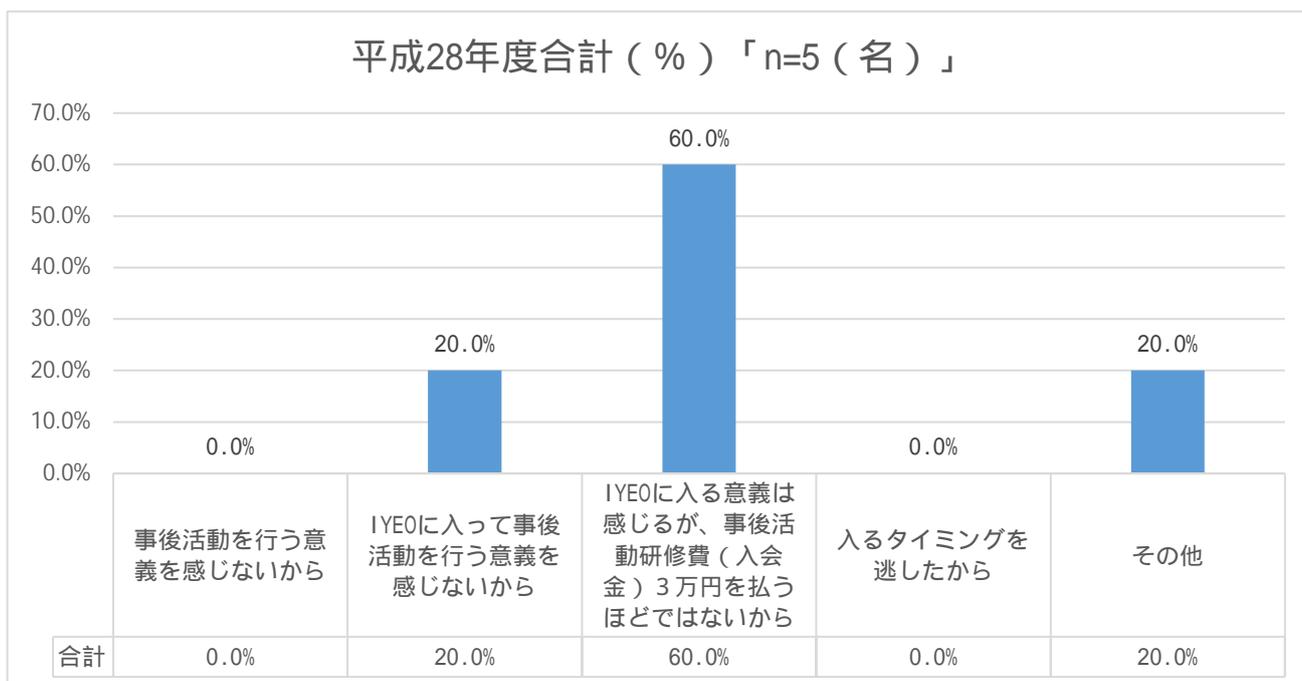
- ・会費はできない方がありがたく、情報共有したり、興味のある人で一緒に企画したり、緩く長く繋がれる組織であると嬉しい。
- ・海外の参加青年との交流の機会があるとよいと思う。
- ・すでに多数のイベントを開催しており、活動に参加したいと思う。一方で少し活動から離れた人が再度参加するには少しハードルが高いように感じる。すでに参加者の中で関係性ができていそうだから。
- ・海外支部があると活動しやすい。
- ・コロナ禍で活動が制約されるようになり、各都道府県の IYEO が活動を頑張っているが、一般の方への認知度は少ないように思う。IYEO 活動が一般の方(事業に参加する青年世代だけではなく、その親世代)にも認知されるような活動を行うことが肝要だと思う。
- ・コア事業に参加した青年は、外国の内閣府等への訪問を行って学んでいる。だが、専門性で事業参加資格を得ているために英語が話せず、その後の繋がりが継続できない場合がある。受け入れ先との繋がりが継続して持てるようなフォローがあると、事業参加を活かした活動が行えると思う。
- ・自主的な活動はもちろんのこと、各都道府県での国際交流や青少年団体に認知してもらうことで、各団体のイベントにおいて IYEO の活動紹介の機会が得られると良いと思います。活動紹介や、イベントブースのボランティアを募りともに活動することで、新たな事業参加者の確保が出来て活動が継続しやすいものになると思う。
- ・活動している人が可視化できるといい。地方との格差が大きいため、地方にももっと支援をしてほしい。
- ・コロナ前のように日本の青年が海外の公的機関の視察などを通じて日本と海外との交流やあり方を考えるきっかけになる機関であって欲しい。そして参加後もその人自身の人生に影響を与える経験をすることで未来の日本の発展につながる軸となる組織であってほしいと思う。
- ・IYEO のメンバー間での交流機会が増えると、お互いの関心事項や仕事に関係する人と知り合うことができ、IYEO として活動する際にもより強い帰属意識を持ちながら積極的に活動に参加する人が増えると思う。
- ・組織が硬直化しつつあり、若者と高齢者の意識や目線が異なってきたように思える。ゆくゆくは IYEO のメンバーが設立するベンチャー企業が起これば、もっと社会にインパクト与えられ社会貢献できる活動につながるのではないかと思われる。
- ・オンラインでも参加できるような内容があれば是非協力したい
- ・どの組織にもありがちなことですが、偏ったメンバーで運営され、モチベーションの高い若者が参加しても継続した活動に繋がらない悪循環が生まれているように感じる。内閣府事業に参加した方は基本的に IYEO 活動にも興味があるはずなので、その芽を摘まないような組織運営が行われるといいなと思う。
- ・様々な世代や生活様式にあった関わり方の出来る機関。
- ・都道府県ごとになかなかカラーがあり、あまりに「コミュニティ」化している(組織立っていない)と、若者は参加しづらいと感じた。
- ・年代職種問わず、オープンな雰囲気誰でも活動に参加できる組織。また、会員以外の若い世代(学生も含む)も活動に巻き込み、次の参加青年を育てていく活動も行う組織。
- ・SNS を駆使した生活に身近な組織。
- ・全体ないし都道府県の IYEO の目的・ビジョンの明確化や属人的にならないような運営があると少しは参加しやすいと思います。
- ・IYEO は既参加青年とつながれる素敵なネットワークであり、今の活動でも満足している。しかし、他県に引越す際、新しい県の IYEO とのコンタクトの取り方がわからなかったことがあるためその辺が分かりやすくなると活発に活動に参加しやすくなると思います。
- ・入会時に支払う費用が、どのように使用されているか、明確になっていると良い。明確になっている場合にはすみませんが、少なくとも私は認知できていなかったもので、認知度を高めていただけると幸いです。
- ・より活発な海外の参加青年との協働事業、インターンシップやボランティアの機会提供等、何年かに一度同窓会を開催するといいいのではないか。
- ・長年事業に携わっている人だけでなく、事業に参加したばかりの人や、参加後、交流事業にブランクがある人なども、入りやすい雰囲気がある活動があれば嬉しいです。また、国外に住む既参加青年との繋がり、交流活動がしてみたいです。
- ・透明性があり、様々なボランティア活動を主体的に行う組織
- ・地域ごとの垣根を越えて繋がれる組織。
- ・各都道府県 IYEO が事業参加後の青年に積極的に働きかけている組織。(新規開拓)
- ・名ばかりの会員を抱えるより、本気で続けたいと思う会員だけが在籍する組織が理想です。
- ・「ボランティア」「社会貢献」は一見美しいけど、時にそれは事態をややくせさせたり、そこに携わる人を苦しめます。メンバー間の温度差がある中で、運営することがどんなに辛いことか...

- ・地域貢献・自身のやりたい活動が明確な人だけが集まったら、アイデアが何倍にも膨れ上がると思います。そのような人材を明確に確保するためにも、IYEO のやっている活動をしっかりプロモーションし、「このグループが好き！付いていきたい」と思う人達だけが集結して、一般向けのイベントや活動を運営していく組織であってほしいです。
- ・事業参加後 5 年未満の方々、また 20 代の方々が積極的に活動に参加していると活動を継続しやすいかと思えます。
- ・地元に戻り物理的に集まるのが難しい状況ですが、地方に国内外から受け入れを行いたいと考えており、定期的にオンラインで交流ができ密に情報交換を出来る環境があれば活動しやすいと思います。
- ・幅広いトピックの勉強会があると参加したくなるかと思う。
- ・既に行われていると思いますが、コーヒーミーティングやカメラ撮影散策など「趣味×国際交流」などの集まりを増やすとより多くの参加者が増え、趣味同士の仲間で絆が深まると思います。
- ・引越などで居住地が変わっても気軽に交流が続けられる、拓けた組織。
- ・参加青年同士が、同窓会のようなつながりで全国大会などで顔を合わせる事ができる、また世代を超えた繋がりでの自分の世代とは違った話、経験が話し合えるような組織であると活動しやすいと思います。
- ・単なる同窓会組織ではなく、協働、共創がしっかりとそこにあり、インセンティブを実感できる組織。また、グローバルアクションが組成できる生態系であること。
- ・参加青年に一律で 2 万円ほどを強制徴収するやり方はやめたほうが良い。何故、このお金が必要で、何に使われるのか、そして、払うか払わないかを選ぶ自由があることの説明をしなければいけないと思う。今振り返っても、奪われたとしか思えない。その不信感があるため、活動には参加したくない。
- ・特に問題点は感じていないが、しいて言えば、地方組織の体質や役員に刷新があってもよいだろう。
- ・仕事と両立しながらでも活動しやすい組織であること。

問6-2. 「いいえ」を選んだ方は、なぜですか。

平成28年度	事後活動を行う 意義を感じないから	IYEOに入って事後活 動を行う意義を感じ ないから	IYEOに入る意義は感 じるが、事後活動研 修費（入会金）3万 円を払うほどではな いから
国際青年育成交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 100.0%
日本・中国青年親善交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 100.0%
日本・韓国青年親善交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%
「東南アジア青年の船」事業	0 (名) 0.0%	1 (名) 100.0%	0 (名) 0.0%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 50.0%
合計	0 (名) 0.0%	1 (名) 20.0%	3 (名) 60.0%

平成28年度	入るタイミングを逃 したから	その他	合計
国際青年育成交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 100%
日本・中国青年親善交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 100%
日本・韓国青年親善交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%
「東南アジア青年の船」事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	0 (名) 0.0%	1 (名) 50.0%	2 (名) 100%
合計	0 (名) 0.0%	1 (名) 20.0%	5 (名) 100%



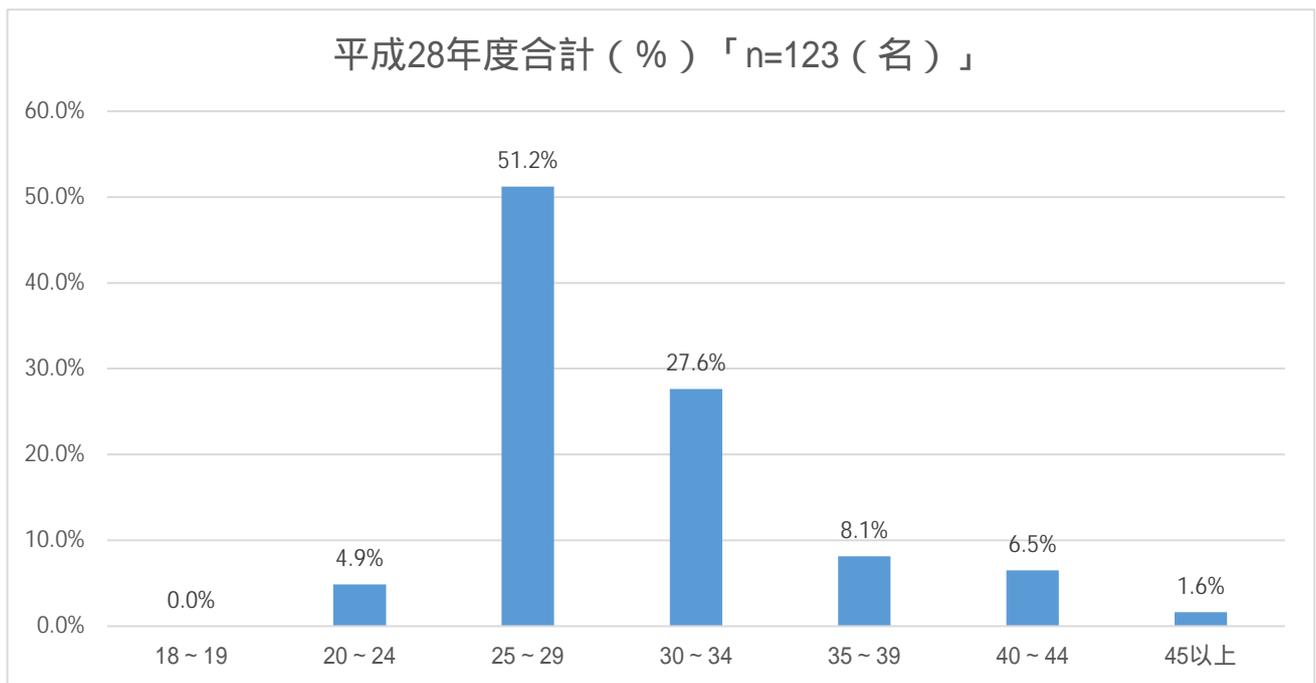
問 6-3. 問 6-2 で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

・入ってるか覚えていません。

＜あなた御自身について伺います。＞

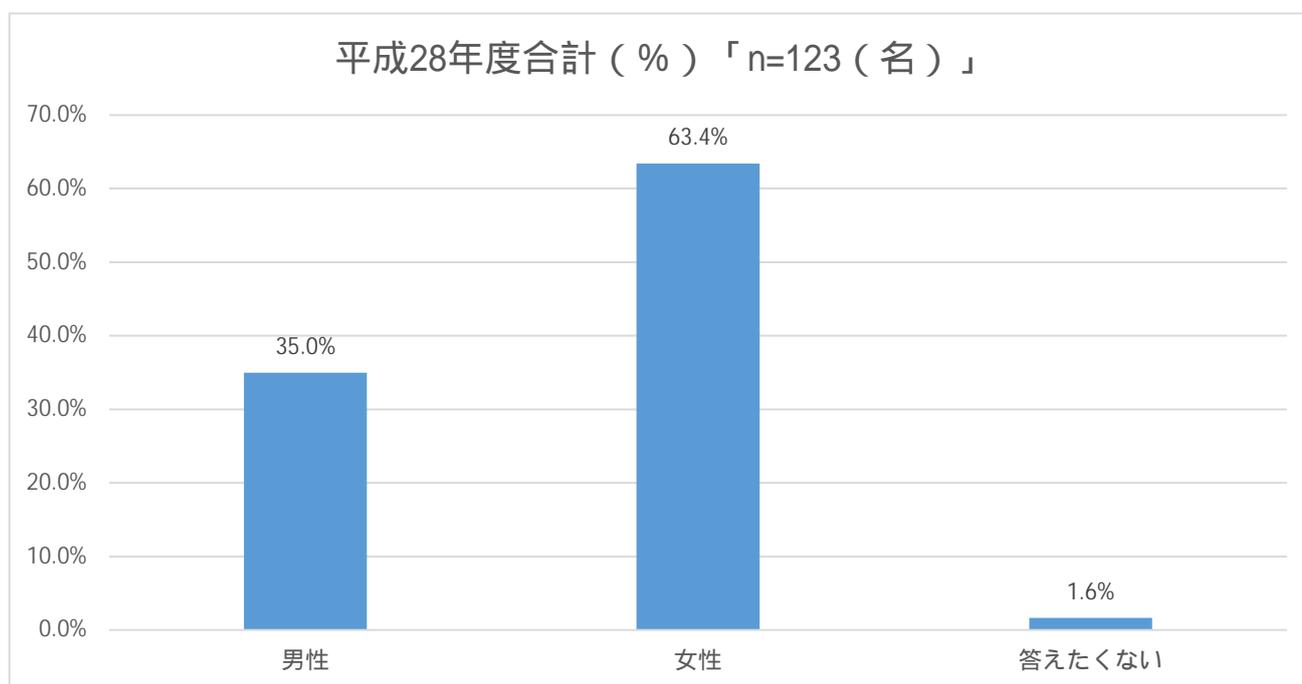
問7 .あなたの現在の年齢を教えてください。

平成28年度	18～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45以上	合計
国際青年育成交流事業	0 (名) 0.0%	1 (名) 7.7%	10 (名) 76.9%	1 (名) 7.7%	1 (名) 7.7%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	13 (名) 100%
日本・中国青年親善交流事業	0 (名) 0.0%	1 (名) 8.3%	10 (名) 83.3%	1 (名) 8.3%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	12 (名) 100%
日本・韓国青年親善交流事業	0 (名) 0.0%	1 (名) 10.0%	9 (名) 90.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	10 (名) 100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	2 (名) 13.3%	3 (名) 20.0%	8 (名) 53.3%	2 (名) 13.3%	15 (名) 100%
「東南アジア青年の船」事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	9 (名) 37.5%	11 (名) 45.8%	4 (名) 16.7%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	24 (名) 100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	0 (名) 0.0%	3 (名) 6.1%	25 (名) 51.0%	19 (名) 38.8%	2 (名) 4.1%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	49 (名) 100%
合計	0 (名) 0.0%	6 (名) 4.9%	63 (名) 51.2%	34 (名) 27.6%	10 (名) 8.1%	8 (名) 6.5%	2 (名) 1.6%	123 (名) 100%



問 8. あなたの性別をお答えください。

平成28年度	男性	女性	答えたくない	合計
国際青年育成交流事業	5 (名) 38.5%	8 (名) 61.5%	0 (名) 0.0%	13 (名) 100%
日本・中国青年親善交流事業	2 (名) 16.7%	10 (名) 83.3%	0 (名) 0.0%	12 (名) 100%
日本・韓国青年親善交流事業	1 (名) 10.0%	9 (名) 90.0%	0 (名) 0.0%	10 (名) 100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	8 (名) 53.3%	7 (名) 46.7%	0 (名) 0.0%	15 (名) 100%
「東南アジア青年の船」事業	10 (名) 41.7%	14 (名) 58.3%	0 (名) 0.0%	24 (名) 100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	17 (名) 34.7%	30 (名) 61.2%	2 (名) 4.1%	49 (名) 100%
合計	43 (名) 35.0%	78 (名) 63.4%	2 (名) 1.6%	123 (名) 100%

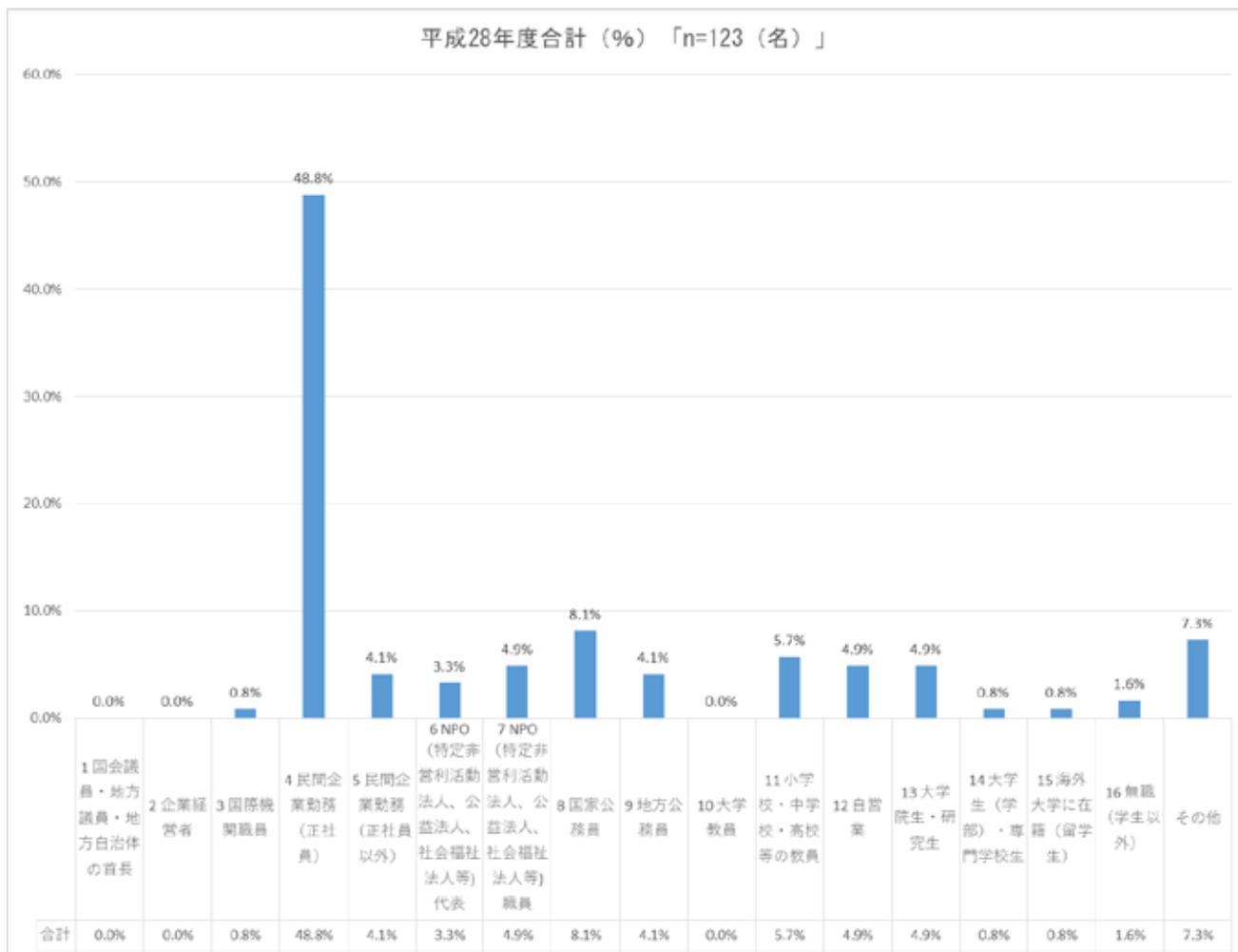


問9. あなたの現在の就業状況をお答えください。

平成28年度	1 国会議員・地方議員・地方自治体の首長	2 企業経営者	3 国際機関職員	4 民間企業勤務（正社員）	5 民間企業勤務（正社員以外）	6 NPO（特定非営利活動法人、公益法人、社会福祉法人等）代表
国際青年育成交流事業	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	6（名） 46.2%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%
日本・中国青年親善交流事業	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	7（名） 58.3%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%
日本・韓国青年親善交流事業	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	8（名） 80.0%	1（名） 10.0%	0（名） 0.0%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	2（名） 13.3%	1（名） 6.7%	2（名） 13.3%
「東南アジア青年の船」事業	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	1（名） 4.2%	12（名） 50.0%	1（名） 4.2%	0（名） 0.0%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	25（名） 51.0%	2（名） 4.1%	2（名） 4.1%
合計	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	1（名） 0.8%	60（名） 48.8%	5（名） 4.1%	4（名） 3.3%

平成28年度	7 NPO（特定非営利活動法人、公益法人、社会福祉法人等）職員	8 国家公務員	9 地方公務員	10 大学教員	11 小学校・中学校・高校等の教員	12 自営業
国際青年育成交流事業	0（名） 0.0%	2（名） 15.4%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	3（名） 23.1%	0（名） 0.0%
日本・中国青年親善交流事業	0（名） 0.0%	1（名） 8.3%	2（名） 16.7%	0（名） 0.0%	1（名） 8.3%	0（名） 0.0%
日本・韓国青年親善交流事業	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	1（名） 10.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	6（名） 40.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	2（名） 13.3%	0（名） 0.0%
「東南アジア青年の船」事業	0（名） 0.0%	5（名） 20.8%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	2（名） 8.3%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	0（名） 0.0%	2（名） 4.1%	2（名） 4.1%	0（名） 0.0%	1（名） 2.0%	4（名） 8.2%
合計	6（名） 4.9%	10（名） 8.1%	5（名） 4.1%	0（名） 0.0%	7（名） 5.7%	6（名） 4.9%

平成28年度	13 大学院生・研究生	14 大学生（学部）・専門学校生	15 海外大学に在籍（留学生）	16 無職（学生以外）	その他	合計
国際青年育成交流事業	2（名） 15.4%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	13（名） 100%
日本・中国青年親善交流事業	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	1（名） 8.3%	12（名） 100%
日本・韓国青年親善交流事業	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	10（名） 100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	2（名） 13.3%	15（名） 100%
「東南アジア青年の船」事業	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	0（名） 0.0%	1（名） 4.2%	2（名） 8.3%	24（名） 100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	4（名） 8.2%	1（名） 2.0%	1（名） 2.0%	1（名） 2.0%	4（名） 8.2%	49（名） 100%
合計	6（名） 4.9%	1（名） 0.8%	1（名） 0.8%	2（名） 1.6%	9（名） 7.3%	123（名） 100%

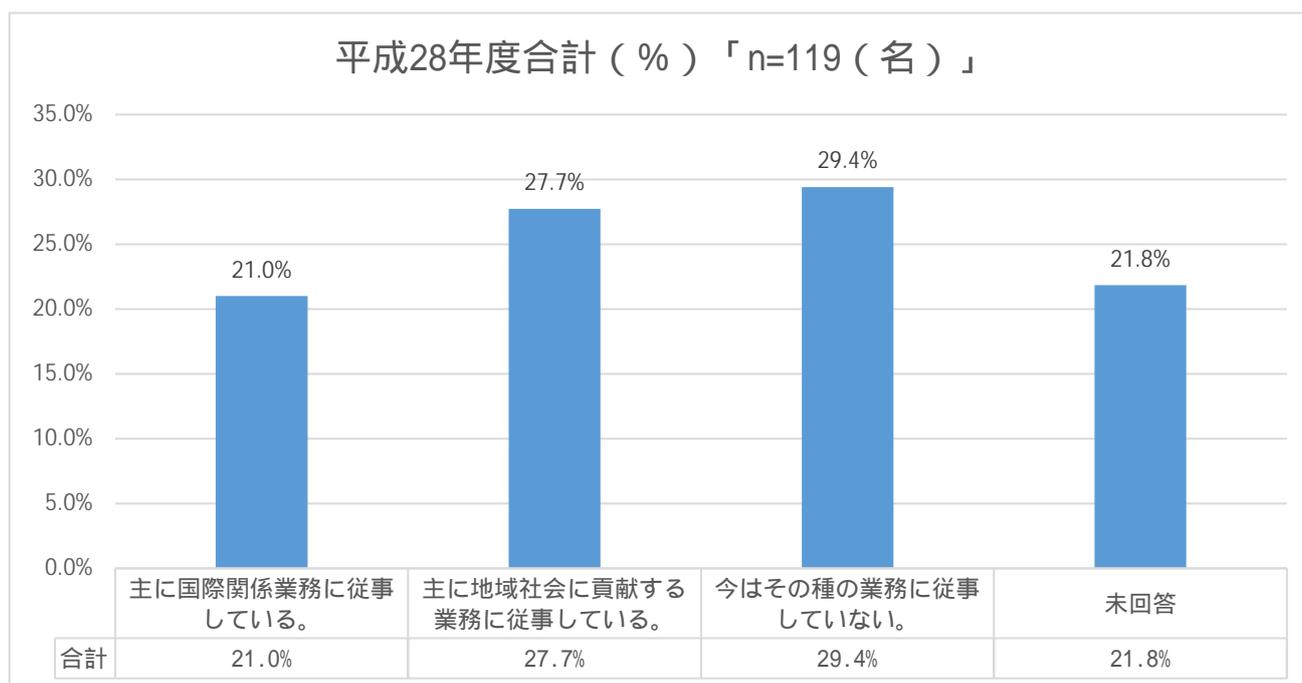


問 9-1. 「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

- ・ 医師
- ・ 投資家
- ・ 社団法人
- ・ 育児休業中
- ・ NPO 法人代表及び中学校教員の兼業
- ・ 政党職員
- ・ 独立行政法人職員
- ・ 国立大学法人事務職員
- ・ 専門学校教員

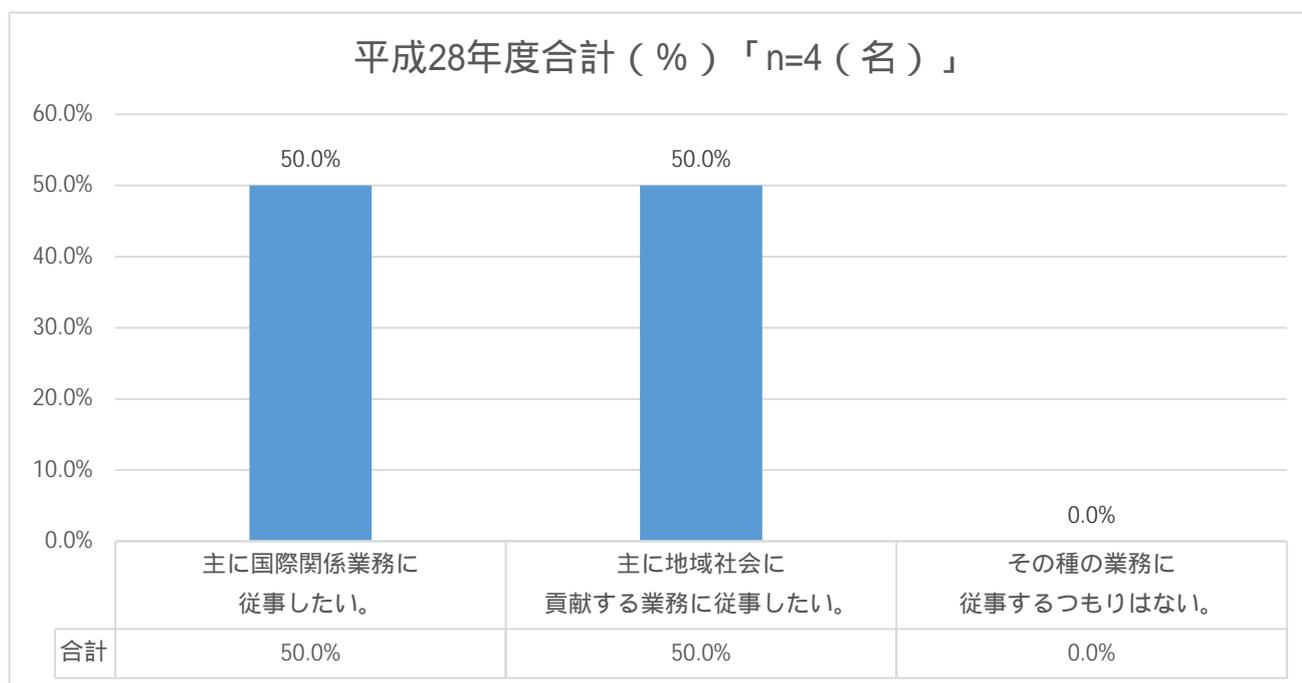
問 9-2. 【問 9 で 1～13 又はその他を選んだ方のみ回答】 あなたはいわゆる国際関係業務や地域社会に貢献する業務に従事していますか。いずれか一つ選択してください。

平成28年度	主に国際関係業務に従事している。	主に地域社会に貢献する業務に従事している。	今はその種の業務に従事していない。	未回答	合計
国際青年育成交流事業	1 (名) 7.7%	3 (名) 23.1%	6 (名) 46.2%	3 (名) 23.1%	13 (名) 100%
日本・中国青年親善交流事業	4 (名) 33.3%	1 (名) 8.3%	5 (名) 41.7%	2 (名) 16.7%	12 (名) 100%
日本・韓国青年親善交流事業	2 (名) 20.0%	3 (名) 30.0%	3 (名) 30.0%	2 (名) 20.0%	10 (名) 100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	0 (名) 0.0%	11 (名) 73.3%	1 (名) 6.7%	3 (名) 20.0%	15 (名) 100%
「東南アジア青年の船」事業	7 (名) 30.4%	4 (名) 17.4%	5 (名) 21.7%	7 (名) 30.4%	23 (名) 100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	11 (名) 23.9%	11 (名) 23.9%	15 (名) 32.6%	9 (名) 19.6%	46 (名) 100%
合計	25 (名) 21.0%	33 (名) 27.7%	35 (名) 29.4%	26 (名) 21.8%	119 (名) 100%



問 9-3.【問 9 で 14～16 を選んだ方のみ回答】あなたは今後いわゆる国際関係業務や地域社会に関する業務に従事したいですか。いずれか一つ選択してください。

平成28年度	主に国際関係業務に従事したい。	主に地域社会に貢献する業務に従事したい。	その種の業務に従事するつもりはない。	合計
国際青年育成交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%
日本・中国青年親善交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%
日本・韓国青年親善交流事業	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%
「東南アジア青年の船」事業	1 (名) 100.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	1 (名) 100%
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	1 (名) 33.3%	2 (名) 66.7%	0 (名) 0.0%	3 (名) 100%
合計	2 (名) 50.0%	2 (名) 50.0%	0 (名) 0.0%	4 (名) 100%



問 10. その他、御意見等ありましたら御記入ください。

- ・ コアリーダープログラムに参加ができたことは、大きな転機となり地域活動を継続できている。地域支援は単発イベントではなく継続していくことが多いため、国際交流を通じてそのバイタリティに触れることができた。このような機会は今後も続いていって欲しいと思う。
- ・ 事業参加を通じて国際貢献の意識が高まっただけでなく、優秀な方々と交流することで自分自身に必要なと思うことが可視化でき、将来のキャリアプランを形成する上で非常に役立った。
- ・ 本事業継続のため、お役に立てそうなことがあれば、是非、声を掛けしてほしい。
- ・ 財務省で国際関係の業務を行っているが、東南アジア各国に友人がいることで、それぞれの国の生の情報(ミャンマー政変や各国コロナ情勢など)を得ることができており、非常に有益かつ得難い人間関係を構築できていると思う。東南アジア各国において日本との信頼関係を高める効果も実感しており、是非今後も継続的に事業を続ける必要があると感じる。
- ・ 私にとって本事業は本当に大きなものだった。正直中国にあまり興味がなかった私が、中国派遣事業に参加し、中国という国がわたしの中でかなり大きな関心事になった。実際に現地に行って人々と関わり体験してくることは、各人に大切な経験となると思う。現在は韓国で日本を含めた海外と関わる仕事をしている。まだまだ難しいが、日中韓の平和や発展に関われる人間になりたいと思っている。コロナや予算等もあって事業継続が難しいことと思う。若者がこういった体験をできる機会を提供し続ける内閣府であってほしいと、元事業参加者として願っている。
- ・ 犯罪心理学を勉強しており、将来的には地域の犯罪軽減に貢献したいと思っている。
- ・ 船での経験を基に、外務省に就職しかねてからの希望であった、中東地域や平和構築の専門家としてのキャリアの道へ進むことができた。
- ・ 内閣府青年国際交流事業に参加し、滞在した国の歴史や文化だけではなく、参加青年との協働など多くのことを学ぶ機会になった。
- ・ 事後活動として、子どもたちに活動を伝えていく機会があればいいと思っている。昨年度、子ども関連のイベントでスライム作りを運営した。その際 IYEO について短時間で分かりやすく説明する時間を設けた。親御さんにも一緒に聴いていただくことで、将来の事業参加への親御さんからの後押しにもつながるのではないかと感じた。日本語教育能力検定試験に無事合格できたため、今後は地域で生活されている外国の方との交流や、外国につながる子ども達の学習支援に力を入れていきたい。定期的に調査頂くことが、私の励みになっています。今後とも、よろしくお願いいたします。
- ・ 在中国日本国大使館で「草の根外交官」という言葉を知り、私も何か伝えられるのだと感銘を受けた。そのことがきっかけで今の報道の仕事に就くことを選びました。
- ・ 日本青年が国の代表として派遣され、旅行では行くことのできない公的機関や企業視察を行うことで帰国後自分のやりたいことを見つける場になっていると感じた。この事業自体で成果をあげるのはもちろんだと思うが、参加者の多くが学生であることから未来への投資だと考えます。ぜひコロナを克服して今後も事業継続していただければ良いと感じる。事業の復活を心待ちにしている。色々と困難があると思うが、手伝えることがあれば、積極的に参加したいと思う。

第 4 付録

資料1 調査票その他の調査関係資料

a. 調査票 - オンラインフォーマット 回答フォーム



内閣府共通 意見等登録システム
Registration system
for opinion and comment etc.

内閣府ホーム > 内閣府共通意見等登録システム

令和3年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成28年度事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分~15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただくと幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。

■ 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

メールアドレス (半角) ※必須	<input style="width: 90%;" type="text"/> 残り文字数50
回答者氏名 ※必須	<input style="width: 90%;" type="text"/> 残り文字数50
問1 あなたが参加した事業名は何ですか。 ※必須	<input type="radio"/> 国内青年育成交流事業 <input type="radio"/> 日本・中国青年親善交流事業 <input type="radio"/> 日本・韓国青年親善交流事業 <input type="radio"/> 「東南アジア青年の船」事業 <input type="radio"/> 次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」 <input type="radio"/> 地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」

<内閣府青年国際交流事業への参加による影響について伺います。>

問2 5年前、内閣府の青年国際交流事業に参加したことで、その後の5年間であなたにどのような影響がありましたか。

以下のaからfに挙げる項目について、該当するものをそれぞれ一つお選びください。

a. 事業に参加したことで、国際社会に貢献する仕事や活動に関心を持ち、キャリア形成に役立っている。 ※必須	<input type="radio"/> そう思う <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> そう思わない
b. 事業に参加したことで、地域社会に貢献する仕事や活動に関心を持	<input type="radio"/> そう思う <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> そう思わない

ち、キャリア形成に役立っている。

※必須

c. 事業で得たリーダーシップやマネジメント能力を発揮する具体的な機会を得た。

※必須

そう思う ややそう思う どちらでもない あまりそう思わない そう思わない

d. 事業参加経験をきっかけに社会貢献（ボランティア活動等）に取り組むようになった。

※必須

そう思う ややそう思う どちらでもない あまりそう思わない そう思わない

e. 事業で得た国際的人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。

※必須

そう思う ややそう思う どちらでもない あまりそう思わない そう思わない

f. 事業で得た国内的人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。

※必須

そう思う ややそう思う どちらでもない あまりそう思わない そう思わない

問3 あなたは、同じ事業に参加した外国参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

※必須

外国参加青年と交流が続いている
 外国参加青年と交流は続いていない

 入力内容を
パソコンに保存する

次へ>

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#)



内閣府

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
電話番号: 03-5253-2111 (大代表)

内閣府法人番号 2000012010019

© Cabinet Office, Government of Japan

令和3年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成28年度事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただけると幸いです。

【注意事項】

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

問3-1. 【外国参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。（複数選択可）また、c,dを選んだ方は具体的な内容を記載してください。

- a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている
- b. 事業終了後に外国参加青年を訪問する、外国参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている
- c. 社会貢献活動を共同で行っている d. 仕事の相手として続いている

【問3-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください。

残り文字数200

【問3-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください

残り文字数200

< 修正

入力内容を
パソコンに保存する

次へ>

令和3年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成28年度事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただけると幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」を御覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

問4 あなたは、同じ事業に参加した日本参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

※必須

- 日本参加青年と交流が続いている
- 日本参加青年と交流が続いていない

< 修正

 入力内容を
パソコンに保存する

次へ>

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#)

令和3年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成28年度事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただけると幸いです。

【注意事項】

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

2. 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

問4-1.【日本参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。（複数選択可）また、c,dを選んだ方は具体的な内容を記載してください。

- a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている
 b. 事業終了後に日本参加青年を訪問する、日本参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている
 c. 社会貢献活動を共同で行っている d. 仕事の相手として続いている

【問4-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

残り文字数200

【問4-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

残り文字数200

< 修正

 入力内容を
パソコンに保存する

次へ>

令和3年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成28年度事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただくと幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

2. 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

<「事後活動」について問います。>

内閣府の青年国際交流事業において、事業実施中の活動ではなく、事業参加後、事業で得た学びを広く社会に還元することを目的とした活動を「事後活動」と呼んでいます。

問5 5年前に事業に参加した後、その後の5年間に以下の事後活動に参加しましたか。（複数選択可）

※22問

- 事後活動組織の国際大会（SIGA, SWY Global Assembly, 日韓交流連絡会議等）
- 事後活動組織の国内大会（全国大会、ブロック大会等）
- 内閣府青年国際交流事業の実施への協力（例：広報の実施、ホームステイの受入れ、実行委員会への参加、等）
- 事業説明／報告会等で内閣府青年国際交流事業参加経験を他者に伝える活動（内閣府職員が出席する説明・報告会への参加）
- 事業説明／報告会等で内閣府青年国際交流参加経験を他者に伝える活動（上述以外）
- 主に国外を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動（例：スタディーツアー等）
- 主に国内を対象とする内閣府主催以外の国際交流活動（例：国際教育支援等）
- 国内外の災害復興支援（東日本大震災復興支援活動、熊本地震復興支援活動等）
- 各都道府県における事後活動組織の活動（定例会、独自の活動等）
- 街おこし等の地域密着型の社会活動 その他 上のどれにも参加していない。

問5-1 問5で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

残り文字数150

問5-2 問5で「上のどれにも参加していない」を選んだ方は、参加

- 時間がなかったから 事後活動に関して知識や関心が無いから

しなかったのはなぜですか？

上述のような事後活動の機会があることを知らなかったから、 その他

問 5-3 問 5-2で「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。

残り文字数200

問 6.内閣府の青年国際交流事業では、参加した青年を中心に組織された同志会組織である日本青年国際交流機構 (IYEO) が大きな事後活動組織としてあります。あなたは、IYEOに会員登録 (入会) しましたか。

はい
 いいえ

※必須

< 修正



入力内容を
パソコンに保存する

次へ >

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#)



内閣府

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
電話番号 03-5253-2111 (大代表)

内閣府法人番号 2000012010019

© Cabinet Office, Government of Japan

令和3年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成28年度事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりますが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただくと幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

問6-1「はい」を選んだ方は、今後IYEOがどのような組織であると活動を継続しやすいと思いますか。

残り文字数300

< 修正

入力内容を
パソコンに保存する

次へ>

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#)

令和3年度内閣府青年国際交流事業既参加青年フォローアップ調査

内閣府青年国際交流担当室

回答者へのメッセージ

こちらは、内閣府青年国際交流事業のフォローアップ調査です。調査対象は、平成28年度事業参加者の方です。質問は全部で11問あります。コメント欄の記載によりですが、5分～15分程度で記入できる内容です。今後の事業の発展のために御協力いただけると幸いです。

[注意事項]

氏名・メールアドレスについては、いただいた御意見・御質問の主旨が不明確な場合などに問合せをさせていただくために記入いただくものです。記入いただいた個人情報は他の用途には使用いたしません。

必要事項を記入後、[内容確認画面へ進む]ボタンをクリックしてください。
[修正]ボタンをクリックした場合、本ページで記入頂いた内容が消える場合があります。

- 2 文字化けを防ぐため、半角カタカナ、丸数字、特殊文字は使用しないでください。使用された場合、一部特殊文字は規則に従い、自動的に置き換えて受信を行います。あらかじめ御了承ください。（詳細は「置き換え規則について」をご覧ください。）

1. 内容入力

2. 確認

3. 完了

<あなた御自身について伺います。>

問7 あなたの現在の年齢を教えてください。 ※必須	<input type="radio"/> 18～19 <input type="radio"/> 20～24 <input type="radio"/> 25～29 <input type="radio"/> 30～34 <input type="radio"/> 35～39 <input type="radio"/> 40～44 <input type="radio"/> 45以上
問8 あなたの性別をお答えください。 ※必須	<input type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性 <input type="radio"/> 答えたくない
問9 あなたの現在の就業状況をお答えください。 ※必須	<input type="radio"/> 1 国会議員・地方議員・地方自治体の首長 <input type="radio"/> 2 企業経営者 <input type="radio"/> 3 国際機関職員 <input type="radio"/> 4 民間企業勤務（正社員） <input type="radio"/> 5 民間企業勤務（正社員以外） <input type="radio"/> 6 NPO（特定非営利活動法人、公益法人、社会福祉法人等）代表 <input type="radio"/> 7 NPO（特定非営利活動法人、公益法人、社会福祉法人等）職員 <input type="radio"/> 8 国家公務員 <input type="radio"/> 9 地方公務員 <input type="radio"/> 10 大学教員 <input type="radio"/> 11 小学校・中学校・高校等の教員 <input type="radio"/> 12 自営業 <input type="radio"/> 13 大学院生・研究生 <input type="radio"/> 14 大学生（学部）、専門学校生 <input type="radio"/> 15 海外大学に在籍（留学生） <input type="radio"/> 16 無職（学生以外） <input type="radio"/> その他：
問9-1「その他」を選んだ方は、具体的に御記入ください。	<input type="text"/> 残り文字数150
問9-2 【問10で1～13又はその他を選んだ方のみ回答】 あなたは	<input type="radio"/> 主に国際関係業務に従事している。 <input type="radio"/> 主に地域社会に貢献する業務に従事している。 <input type="radio"/> 今はその種の業務に従事していない。

いわゆる国際関係業務や地域社会に貢献する業務に従事していますか。いずれか一つ選択してください。

問9-3 【問10で14～16を選んだ方のみ回答】あなたは今後いわゆる国際関係業務や地域社会に関係する業務に従事したいですか。いずれか一つ選択してください。

- 主に国際関係業務に従事したい。 主に地域社会に貢献する業務に従事したい。
 その種の業務に従事するつもりはない。

問10 その他、御意見等ありましたら御記入ください。

残り文字数300

[< 修正](#)

 [入力内容をパソコンに保存する](#)

[内容確認画面へ進む >](#)

※「入力内容をパソコンに保存する」は、スマートフォン端末、タブレット端末ではご利用頂けません。

[このページの先頭へ](#) 



〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
電話番号：03-5253-2111（大代表）

内閣府法人番号 2000012010019

© Cabinet Office, Government of Japan

資料2 内閣府青年国際交流事業の概要(平成28年度)

<p>国際青年育成交流事業</p>	<p>皇太子同妃両殿下の御成婚を記念して、平成6年度から開始 日本青年の海外派遣及び外国青年の日本招へいの二つの事業から構成 当時皇太子殿下であられた今上陛下の御成婚記念事業として昭和34年度から開始された「青年海外派遣」事業及び昭和37年度から開始された「外国青年招へい」事業を発展的に改組 国際協力活動の現場の視察・体験、課題別視察及び訪問国青年とのディスカッション、ホームステイ等を実施 日本青年等48名を世界3か国に18日間派遣、外国青年49名を世界6か国から16日間招へい</p>
<p>日本・中国青年親善交流事業</p>	<p>日中平和友好条約の締結を記念し、日本と中国の両国政府の共同事業として昭和54年度から開始 日本青年等23名を12日間派遣</p>
<p>日本・韓国青年親善交流事業</p>	<p>昭和59年の日本・韓国共同声明及び昭和60年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、日本と韓国両国政府の共同事業として昭和62年度から開始 日本青年等30名を15日間派遣、韓国青年30名を15日間招へい</p>
<p>地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」 平成27年度まで「青少年社会活動コアリーダー育成プログラム」として実施</p>	<p>社会活動の中核を担う青年リーダーの育成を目的に平成14年度から開始(高齢者関連、障害者関連、青少年関連の3分野を対象) 社会活動に携わっている日本青年と外国青年が討議、交流を実施 日本青年等27名(受入自治体からの派遣青年は招へい時の地方プログラムに協力)を先進国3か国に10日間派遣、外国青年37名を同3か国から15日間招へい</p>
<p>「東南アジア青年の船」事業</p>	<p>日本とASEAN各国との共同声明に基づいて、昭和49年度から開始 日本青年約40名とASEAN10か国の青年約280名が約40日間船内などで共同生活をしながら、ディスカッションや各国の文化紹介、クラブ活動など各種の交流活動を行い、ASEANの国々を訪問する。日本及び寄港国では、表敬訪問やホームステイ、施設見学、地元青年との交流活動を実施</p>
<p>次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」(「世界青年の船」)</p>	<p>「青年の船」事業及び「世界青年の船」事業の成果を継承して実施されている事業 急速に進展するグローバル社会の各分野で活躍できる青年リーダーを育成するため、日本青年約120名が10か国の青年約120名と共に日本国内及び船上で研修(陸上研修・船上研修)を実施し、寄港地としてニュージーランド及びフィジーを訪問</p>



1. 沿革

日本青年国際交流機構（International Youth Exchange Organization of Japan 略称 IYEO）は、昭和 34 年度から始まった内閣府（総理府・総務庁）が行ってきた青年国際交流事業「青年海外派遣」「青年の船」「東南アジア青年の船」「日伯青年親善交流」「日本・中国青年親善交流」「オマーン親善交流」「国際青年年記念青年海外特派員派遣」「日本・韓国青年親善交流」「世界青年の船」「国際青年育成交流」「国際社会青年育成」「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」「グローバルリーダー育成事業」「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」「地域課題対応人材育成事業」「地域コアリーダープログラム」の各事業の既参加青年で組織されており、会員数は約 1 万 2 千に達しています。

沿革をたどると、昭和 36 年、「青年海外派遣」事業の既参加青年組織として「日本青年海外派遣青友会」が結成され、次いで昭和 43 年「青年の船」事業の既参加青年組織として「青年の船の会」が組織され、昭和 60 年には活動組織としての確立を目指して両者が統合し「日本青年国際交流機構」が発足しました。

2. 目的・組織

日本青年国際交流機構は、その規約に「青少年国際交流事業で得た成果を踏まえつつ、国際理解を深め、国際親善に寄与し、もって広く社会に貢献するとともに、会員相互の交流と研鑽を図ることを目的とする」と規定し、この目的に沿った活動を行うために、各都道府県が実施している国際交流事業に参加した青年たちと連携を取りながら全国 47 都道府県に都道府県青年国際交流機構を置いています。その名称は、原則として「都道府県青年国際交流機構」ですが、伝統に基づいた独自名称を称しているところや、都道府県事業の既参加青年との合同組織の場合には別名称を称しているところもあります。また、47 都道府県の各組織は、一般財団法人青少年国際交流推進センターの都道府県団体会員に登録されています。

3. 活動

日本青年国際交流機構の中央組織は、会員相互の交流を図り、都道府県での活動が円滑に行われるよう連絡調整の役割を果たすとともに、内閣府青年国際交流事業に参加した外国青年との連携強化を推進しています。

都道府県青年国際交流機構は、地域の国際交流活動の振興に寄与し、広く社会への活動の輪を広げていくとともに、内閣府の行う青年国際交流事業の発展に協力することが主な活動です。

4. 充実・強化

日本青年国際交流機構では、青少年国際交流事業既参加青年の事後活動としての国際交流活動を一層発展させ、各地域での交流活動を充実、強化するために、ボランティアを強力に支援できる体制の確立が不可欠であると考え、公益法人の設立を目指して長年にわたり取り組んできました。この趣旨が理解され、平成 6 年 4 月財団法人青少年国際交流推進センターの設立が許可され、平成 25 年 4 月に一般財団法人に移行しました。

日本青年国際交流機構は、同センターと密接な連携の下に、国際交流活動を基本とした社会に貢献しうる活動を目指しています。

日本青年国際交流機構（IYEO）

住 所 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6 階
一般財団法人青少年国際交流推進センター内
電話番号 03-3249-0767